

2015年度

国 際 学 部

専門ゼミナール選択オリエンテーション資料

目 次

専門ゼミナール選択オリエンテーション要領	3
専門ゼミナール選択指導について	4
2015年度専門ゼミナールⅠ一覧表	6
2015年度専門ゼミナールⅠ概要	8
専門ゼミナール希望調査票	[別配付]

国際学部

専門ゼミナール選択オリエンテーション要領

本年度の専門ゼミナール選択オリエンテーションを次の要領で開催します。

○日時： 2014（平成26）年9月19日（金）13:00～16:30

○場所： 6401教室

○目的： 国際学部の現2年生に、来年度から履修する専門ゼミナールの内容や選択方法について説明します。

○当日の予定

13:00～16:30 国際学部全教員ゼミ紹介
+ゼミ選択の方針、スケジュール説明、希望調査票配布

*スケジュール

希望調査	希望調査票 配布	研究室訪問・ ゼミ見学等期間	第1希望調査票 締め切り	第2・3希望調査票 締め切り
期日	9/19(金)	9/19(金)～ 10/23(木)	10/24(金) 16:40 まで	12/4(木) 16:40 まで

詳細は次ページをご覧ください。

国際学部 2 年生の皆さんへ 【重要】
—2015 年度専門ゼミナール選択指導について—

2014/9/19

国際学部教務委員会

1. 専門ゼミ選択についての方針は以下のとおりです。
 - (1) 専門ゼミナールは国際学部学生の必修科目で、3・4 年次の 2 年間（専門ゼミナール I～IV）にわたり同じ教員のもとで指導を受けることとなります。これは、専門ゼミナールが「国際学部における知の再編と創造の集大成の場」として大変重要だからです。したがって、ゼミ選択にあたってはこれまでの学習への総括とともに、これからの学習研究計画、将来の自分のあり方などを考え、慎重に選択をしてください。
 - (2) 専門ゼミにおける学習上の効果を保障するために、**最少定員（9 名）、最大定員（最も大きい場合で 17 名）を定めます。**なお最大定員については、皆さん学生の希望を尊重する一方で、教育水準の維持を考慮して設定される「ここまでは受け入れることが出来る人数」であり、必ずしも「受け入れなければならない」という意味ではありません。したがって、各ゼミにはそれぞれ異なる最大定員に関する枠が設けられ、各教員の判断で受け入れ人数を調整することとなります。
 - (3) **第 1 希望者が、各教員が設定した定員枠を上回った場合には、各教員が選抜をする場合があります。**第 1 希望への所属がかなわなかった学生諸君は、その後あらためて希望ゼミナールを選んでいただくこととなります。その際の受け入れ可能ゼミの条件等については、当該者に別途連絡します。
 - (4) **第 1 希望で 1 名以上の希望者があった場合にはゼミを開講します。**ただし、その場合には当該学生の意見を聞き、希望ゼミ所属についてあらためて確認をしたいと考えています。希望者ゼロの専門ゼミナールについては非開講となります。
 - (5) 1 年次の領域選択時のアナウンスに則り、**専門ゼミ選択は所属学科・領域にかかわらず、原則として自由に選択することができます。**（open-market operations の原則）皆さん方が志向する専門領域によっては、他学科所属の先生方のゼミが適している場合が十分に考えられますので、web 情報を十分に精査してください。ただし、指導に不可欠な特定科目履修がなされていないなど、ゼミの専門性確保が困難となり、ゼミを指導していく上で目標が達成されない恐れがあるといった理由がある場合に限り、担当教員は自身が所属する学科の学生（あるいは別の学科の学生）を優先的に選抜する場合があります。この場合は予め、その旨を web 情報で公開のうえ、教員からオリエンテーションでも説明をします。
2. 専門ゼミ選択指導のスケジュールは以下のとおりです。
 - (1) **各専門ゼミに関する情報を 9 月 12 日（金）より web ベースで公開します。**皆さんはそれを見直し、確認しておいてください。
 - (2) **専門ゼミオリエンテーションを 9 月 19 日（金）に実施します。【6401 教室予定】OT では全てのゼミ紹介を聴いてください。中途退出は禁止です。OT の最後に「専門ゼミ選択調査票[第 1 志望]」を配布するとともに、教務委員会よりスケジュール、諸注意を伝達します。**

<当日の予定>

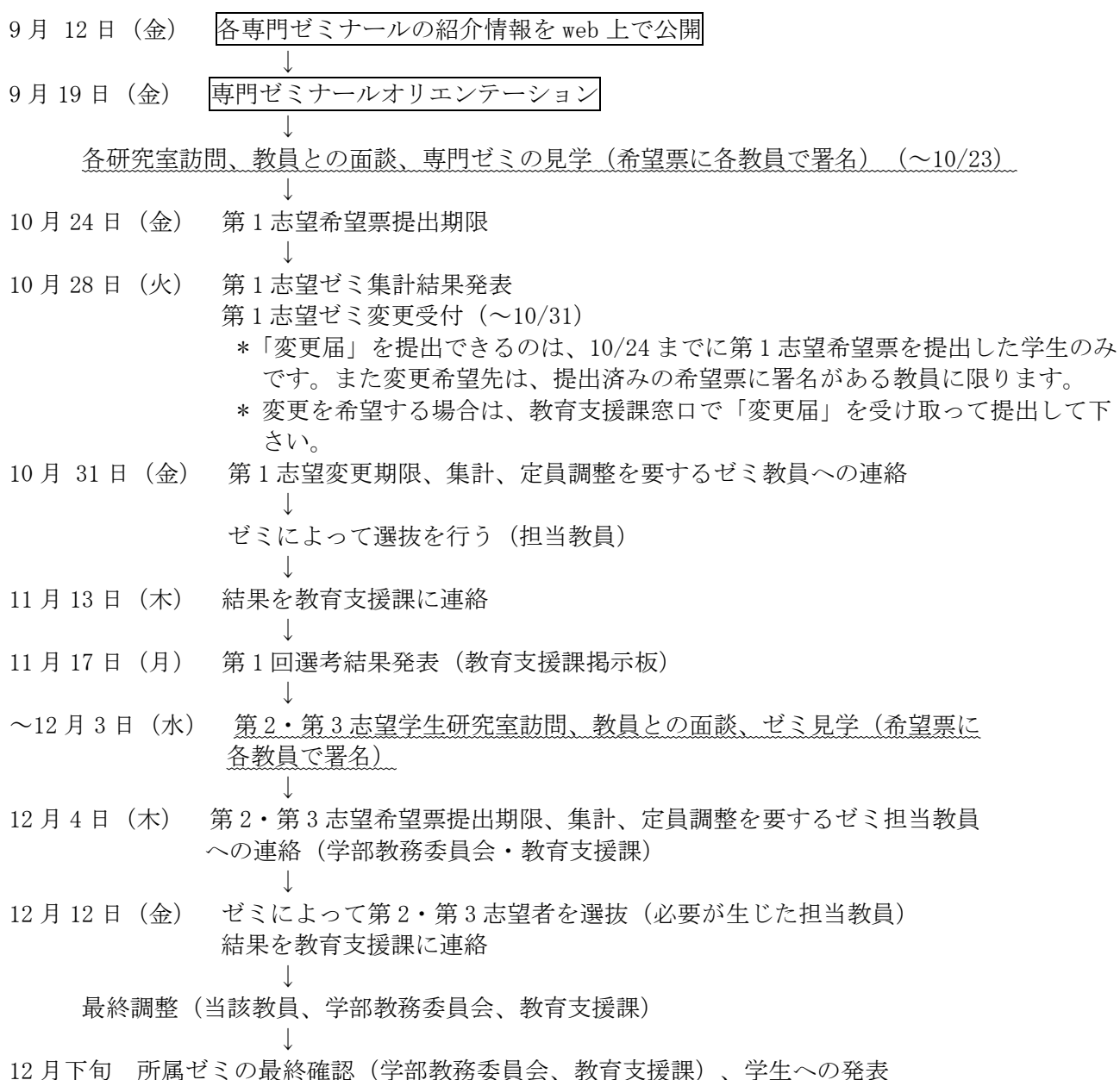
午後：13：00～16：30

国際学部全教員ゼミ紹介

+ゼミ選択の方針、スケジュール説明、希望調査票配布

- (3) 選択指導のための時間を長く取り、複数の研究室訪問、ゼミ見学などが出来るようにスケジュールを設定しています。皆さんは、希望調査票に所属を希望する担当教員からのサインをもらった上で、10月24日(金)までに調査票を教育支援課まで提出してください。
- (4) 学生諸君は(3)の期間中、希望する専門ゼミの見学、研究室の訪問などを積極的に行い、先生方と話し合うなどして情報をさらに集め、希望ゼミを選択するように努めてください。その際、訪問した研究室の教員、所属を希望する教員からのサインをもらってください。**特に第1希望ゼミの教員のサインが無い調査票は無効となりますので注意してください。**当該の先生が長期不在の場合には各学科長(国際理解学科：塩沢先生、国際観光学科：高井先生)、もしくは教務委員長(林)まで相談に来てください。
- (5) その他、疑問等がある場合には教育支援課窓口、あるいは奥田まで相談に来てください。

<参考> 専門ゼミ選択指導のスケジュール



専門ゼミナール I 一覧

No.	教員名	学科	ゼミのテーマ	ゼミ履修に望ましい科目等	受入上限	研究室	ページ
1	赤坂 雅裕	理解	「携帯電話のもたらすマイナス面」「食育」「児童虐待」「いじめ」など、「子ども」と「教育」に関すること	特になし	10名	6213	8
2	阿野 幸一	理解	外国語としての英語学習法と教授法、コミュニケーション能力育成のための英語指導法(主に学校現場での英語指導)	英語教職課程の学生を主な対象とする	10名	6309	9
3	井門 隆夫	観光	宿泊業の課題解決	「ホテル事業論」「ホテルサービス論」	17名	-	10
4	生田 祐子	理解	平和を創り、世界へつながるコミュニケーション	英語コミュニケーション論、英語教育、国際協力、国際理解の関連科目	9名	6407	11
5	井上 由佳	観光	文化施設とコミュニケーション	「交流文化論(A,B)」「文化政策論」「博物館教育論」	10名	6308	12
6	奥田 孝晴	理解	「国際学の旅」を続ける:国際学の諸課題、アジアと日本の過去/現在/未来、第三世界論、飢えや貧困の研究、核と市民社会、アジア経済など	特になし	10名	6406	13
7	賈 強	観光	中国音楽の世界	特になし	12名	6220	14
8	海津 ゆりえ	観光	エコツーリズムを通して考えるこれからの旅 (サブテーマ:エコツーリズムと地域・自然・人の健康)	「エコツーリズム論」「観光資源論」	12名	6307	15
9	金井 恵理可	理解	憲法・行政法・地方自治論・在日外国人の人権	法学系の科目2科目以上(ただし担当者は問わない)	10名	6418	16
10	北野 マグダ	理解	Culture in Media	「ESP F」 English writing course English discussion and debate courses	13名	6412	17
11	小島 克巳	観光	交通事業・交通政策研究 ～自由化時代における交通事業・交通政策のあり方～	「交通事業論」「エアラインビジネス論」「エアラインサービス論」	10名	6317	18
12	齋藤 功高	理解	国際法の研究—国際社会を国際法の視点から読み解く—	「法学入門」「国際理解と法」	9名	6216	19
13	椎野 信雄	観光	現代社会(日本社会や国際社会)の現実を社会学の視点で理解する	特になし	9名	6314	20
14	塩沢 泰子	理解	演劇的手法を活用した英語学習と児童英語教育	「英語とメディア」「英語オーラル・コミュニケーション論」「英語学概論」	12名	6315	21
15	菅原 周一	観光	「インベストメント(投資論)」と「コーポレート・ファイナンス(観光関連企業を中心とした企業価値評価等)」	特になし	10名	6415	22
16	杉山 富士雄	観光	エアラインの産業組織、観光企業の競争戦略、「観光立国」戦略の検討及びホスピタリティ・マーケティング、テーマパーク事業論	「経済学」「経営学」「法学」など社会科学系の科目	9名	6212	23
17	鈴木 正明	観光	アントレプレナーシップ(起業論)	「国際観光と起業(起業論)」	11名	6312	24

No.	教 員 名	学科	ゼミのテーマ	ゼミ履修に望ましい科目	受入 上限	研究室	ページ
18	高井典子	観光	トラベル・ビジネス 観光行動 グローバル化した社会と観光	「国際観光論」「トラベル・ビジネス論」「旅行法規」	11名	6310	25
19	千葉克裕	理解	英語教育学 第2言語習得論 応用言語学	言語学、英語学など英語教職課程に必要な諸科目、および心理学、統計学など	9名	6304	26
20	キャリア・デュバル	理解	Minority Rights and Intercultural Communication 異文化コミュニケーション Using English for research or business report writing and oral communication skills need in business, education or leisure industry	「EIC 101」～「EIC 104」 「CALL 101」～「CALL 104」	10名	6411	27
21	那須一貴	観光	経営管理、経営戦略、業務改革など、企業経営に関わる問題解決方法について実践を通じて学ぶ	特になし	14名	6409	28
22	林 薫	理解	開発学＝開発と協力の公共政策学。途上国がどのようにして発展していくことができるか、そのためにどのような協力を行っていくべきか。特に、人々の所得の向上による貧困の削減。	「開発と国際協力」「資源と国際協力」	11名	6306	29
23	藤井美文	理解	1)環境経済学を柱とする環境問題 2)環境問題と意思決定や環境教育に関する問題 3)環境(主に廃棄物)領域における国際協力	「環境経済学」(3年秋学期)	10名	6416	30
24	黛 陽子	観光	インタープリテーション「知る→伝える→つなぐ→解決策」	「生態系と人間」「国際観光とデザイン」 「インタープリテーション論(理論・応用演習)」	12名	6417	31
25	宮原辰夫	観光	「自分たちのまちおこし」「持続可能な社会」	「地域研究F(南アジア)」	10名	6405	32
26	本浜秀彦	理解	国際日本研究	「現代日本の諸問題」「日本の地理と歴史」「日本の伝統文化」「博物館展示論」など	9名	6311	33
27	山口一美	観光	観光事業とホスピタリティ・マネジメント	「ホスピタリティ・マネジメント論」 「サービス・マネジメント」	12名	6316	34
28	山崎裕子	理解	キリスト教を哲学する	「キリスト教文化と社会」	9名	6410	35
29	山田修嗣	理解	市民参加と地域社会 ――「望ましい社会」における持続可能性と市民の役割の考察――	特になし	10名	6209	36
30	山脇千賀子	理解	人間の視点からグローバリゼーションにむきあうこと ――3.11以降の多文化共生の可能性――	「国際学研究A」「国際理解とコミュニケーション」	10名	6210	37
31	横川潤	観光	観光ホスピタリティ、食のマーケティング	横川先生の担当科目	13名	6413	38
32	渡邊 暁子	理解	「社会の周辺から考える」 キーワード:開発協力、人類学、格差、都市と農村、ミクロな視点	「国際協力論」「紛争と国際協力」「資源と国際協力」「NPO・ボランティアの理論」「開発と国際協力」「文化人類学」その他国際学部の関連科目	9名	6305	39

※ 説明会当日の説明順序とは関係ありません。

担当者名	赤坂 雅裕(あかさか まさひろ)
e-mailアドレス	akasaka@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6213
出講日	(出張していなければ)毎日来ています。
ゼミの開講時間	木4(3年生)、木5(4年生)
担当科目	[春学期] 教育原理、教育制度・社会論、地歴科教育法Ⅰ、教育課程論、総合演習、4年・3年ゼミ、教育実習(中・高校) [秋学期] 教育学概論、道徳教育、特別活動の研究、4年・3年ゼミ、教育実地研究、教育実習(中・高校)、地歴科教育法Ⅱ
研究室を訪問できる時間帯	昼休み
ゼミのテーマ	今、私自身は、「教師論」「道徳教育」「教育原理」に関心があります。ゼミとしては、「携帯電話のもたらすマイナス面」「食育」「児童虐待」「いじめ」など、「子ども」と「教育」に関することでしたら、すべてOKです。
ゼミの内容・メッセージ	「いじめ」「不登校」「キレる子」「モンスターペアレンツ」「学級崩壊」・・・教育現場は、問題が山積しています。そして、それら「教育病理」への有効な方策を見出すことができず、先生方は心身共に疲れ果てています。これではいけません。日本の教育を向上させる方策を我々で見出し、提案しましょう。 「子ども」が大好きで、「教育」に関心があるあなた。どうぞ国際学部でただ一つ「教育学」を専攻できる「赤坂ゼミ」の門を叩いてください。 熱き心を持ったあなたの加入を待っています。
ゼミの進め方	①3年春学期は、赤坂の著書を輪読していきます。 ②3年秋学期から、自分の研究テーマを決め、各自の発表に基づく意見交換を行って いきます。 ③4年次は、このディスカッションをもとに、卒業論文を執筆します。 ④卒論執筆と同時に、茅ヶ崎市内の小・中学生への学習支援ボランティア、江ノ島合宿、八ヶ岳卒論検討合宿、愛の湘南PK、カンボジア・スタディツアーなどを行います。 「人とふれあうこと」と「実践」を重視する赤坂ゼミです。
留意事項 (Requirementなど)	以下の2つの活動に参加していただきます。①茅ヶ崎市内中学校サマースクール支援②カンボジア・スタディツアー
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。あえて言えば、全科目です。
募集人数の上限	10名まで募集します。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	希望者全員との面接にて選抜します。 選考にあたっては、「教育学を学びたい」という「真剣さ・熱さ」を見ます。
ゼミ受入決定者への指示	後日します。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	赤坂ゼミは、いつも「笑顔」で溢れています。 赤坂ゼミでは、「教育」という大きなテーマをもとに、一人ひとりが自ら考え、理想の教育の在り方を追求し、楽しく議論しています。 赤坂先生が目指す「響育・共育・協育」は、思いやりに包まれ、とても温かいものです。夏には、カンボジアの子どもたちに出会うスタディツアーもあります。 人と人とのふれあいを大切にするゼミなので、少しでも興味がある人は、一度研究室に遊びに来て下さい。 教職を目指さない人でも、「教育」に興味があるなら、何一つ問題ははありません。 明るい未来の子どもたちの教育について一緒に考えてみませんか。(4年S)

担当者名	阿野 幸一 (あの こういち)
e-mail アドレス	k-ano@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6309
出講日	火・水・木 (他の曜日にも出校の場合あり)
ゼミの開講時間	木4 (3年生)、木5 (4年生)
担当科目	【春学期】英語科教育法Ⅲ、英語教育研究、教育実習 A、CALL101 【秋学期】英語科教育法Ⅰ、英語科教育法Ⅱ、英語科教育法Ⅳ、英語音声学、教職実践演習、基礎ゼミナール
研究室を訪問できる時間帯	原則として火・水・木は1日中、月と金はNHK ラジオ講座「基礎英語 2」の収録がない場合には出校しています。空き時間は研究室前の予定表で確認してください。ゼミの見学も OK です。
ゼミのテーマ	外国語としての英語学習法と教授法、コミュニケーション能力育成のための英語指導法 (主に学校現場での英語指導)
ゼミの内容・メッセージ	日常生活で英語を用いる機会が限られている日本人英語学習者が、コミュニケーションの手段としての英語力を身につけるには、どのような方法で英語学習に取り組めば効果的かを様々な角度から検証します。同時に、学校教育における英語指導のあり方について、小学校、中学校、高等学校での英語の授業をひとつのつながりと捉え、大きな枠組みの中で、それぞれの学習段階に応じた授業について考えます。 将来英語教師として教壇に立つことを希望する学生、何らかの形で日本の英語教育に貢献したいと考えている学生を歓迎します。主役はゼミ生です。意欲に満ちた皆さんと素敵なゼミを作りたいと思っています。
ゼミの進め方	・英語教育に関するテーマでゼミ生が発表し、全員でディスカッション ・イベント (中高生向けの英語ワークショップでの指導、他大学との共同研究発表、NHK 英語イベント参加など) に向けての準備 ・英語教育現場 (学校や出版社) の訪問やゼミ合宿などを随時実施 ・4年生は卒業論文・卒業制作の作成を中心に行う
留意事項 (Requirement など)	ゼミとしてのプロジェクトを行うことが多いので、自分たちで立てた研究計画をしっかりと実行しましょう。
ゼミ履修に望ましい科目	英語教職課程の学生を主な対象としますが、英語教育に強い関心と学習意欲があれば教職課程以外の学生も受け入れます。
募集人数の上限	学校訪問等の実施をふまえて、10名まで募集します。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	希望者全員と面接を行います。この面接に、志望理由書等も加味して選抜を行います。特に英語教育に対する熱意と意欲を重視します。研究室訪問では担当教員に加え、ゼミの3・4年生とも話をしてください。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ決定後にオリエンテーションを行い、学習の指示等を行います。11月には実質的にゼミ活動がスタートします。
所属ゼミ生からの一言	・阿野ゼミでは、学会での発表、他大学との交流、研修会への参加、学習支援ボランティアなどなど、学校の外に飛び出して本物の英語教育に触れる機会がたくさんあります。その分忙しくて大変なことも多々ありますが、これまでにないくらいたくさんの貴重な経験ができます！あなたも阿野ファミリーの一員になりませんか？ (4年 中山今日子) ・私達阿野ゼミナールは英語科教職ゼミとして、常に向上心を持ち活動しています。将来教師を目指している学生、将来はまだ分からないけれど英語教育に興味がある学生は是非阿野ゼミに来てください。英語教職にここまで力をいれて研究をするゼミは、日本全国探しても阿野ゼミしか存在しません。他にも、学習支援ボランティアなど、実際の学校にお邪魔して、「現場」を勉強できるチャンスも沢山あります。阿野ゼミに入れば、とても充実した2年間がおくれること間違いなしです。この、日本一現場に近いゼミで、一緒に夢を追いかけましょう！ (3年 渡邊拓也)

担当者名	井門 隆夫 (いかど たかお)
e-mail アドレス	ikado@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	
出講日	金曜日
ゼミの開講時間	金曜日 4 限・5 限
担当科目	ホテル事業論 (4)、ホテルサービス論 (5)
研究室を訪問できる時間帯	金曜日昼休みに国際学部事務室をお訪ねいただくか、4 限のゼミの時間にお越しください。
ゼミのテーマ	宿泊業の課題解決。宿泊業は様々な課題を抱えています。実際に現場の課題解決に関わることを通じて、現代観光ビジネスに関する問題意識を醸成していきます。
ゼミの内容・メッセージ	将来、宿泊業で働いてみたいと考える皆さんを中心として、観光地立地の宿泊業のマネジメント、マーケティング、オペレーションに関わっていきます。利用者として感じる「素敵な体験 (理想)」とは全く違う、提供サイドの泥くさい努力の実体験を通じて、将来社会に出た時の自信を培うとともに、様々な現場の矛盾や理不尽等を通じて、日本の観光業の「根っこにある問題」を発見し、その解決策について自ら考え、リサーチし、まとめていくことを期待しています。
ゼミの進め方	3 年生の春semesterでは、白馬村 (長野県) にあるホテルの夏休み企画のプランニングと販売、実際の運営までを行います。秋semesterでは、雪国観光圏 (新潟県) の冬の宿泊旅行商品のプランニングと販売、実際の運営までを行います。いずれもこれまでに学んだマーケティング等の知識の応用が必要です。現場ではコストもかかることから、遊び半分に関わることはできません。また、チームワークが求められます。4 年生の春semesterでは、実際の旅館 (白馬村を予定) の商品企画・営業・販売・運営 (夏休み) を行います。秋semesterでは、主に卒業論文を指導します。
留意事項 (Requirement など)	年に 4～5 回程度、現地を訪ねます。極力低廉な手段を使いますが、交通費や宿泊費がかかることをご承知おきください。
ゼミ履修に望ましい科目	必須ではありませんが、できれば「ホテル事業論」「ホテルサービス論」を履修してください。
募集人数の上限	17 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	原則として書類選考で選抜します。
ゼミ受入決定者への指示	都合がつけば、冬休み期間中に 3 年生が現地で実施する旅行商品の運営を手伝ってみてください。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	私たちのゼミは、宿泊業の課題解決を目的として、現地調査などを積極的に行う超実践型のゼミナールです。 人数が多いので、個性豊かで楽しいゼミです。グループ単位での活動が多いので、仲間と協力して取り組むことができる方に来ていただきたいです。興味がある方はぜひ見学に来てください。(3 年生)

担当者名	生田 祐子 (いくたゆうこ)
e-mail アドレス	ikuta@shonan.bunkyo.ac.jp (FB/LINE での問い合わせも可)
研究室	6 4 0 7
出講日	火曜日・水曜日・金曜日
ゼミの開講時間	金曜日 4 時限と 5 時限(注意:ゼミは 3 2 1 1 教室で行っています。)
担当科目	英語コミュニケーション論 通訳入門 社会言語学 コミュニケーションスキル演習 基礎ゼミ EIC201 (TH6・IU6)
研究室を訪問できる時間帯	火曜日・水曜日・金曜日 12:40-13:15 その他は予約になります。 *研究室ドアに、研究室とゼミ訪問ができる詳細日時を掲示します。
ゼミのテーマ	「平和を創り、世界へつなげるコミュニケーション」
ゼミの内容・メッセージ	世界の標準は多言語社会。言葉が異なる人々や地域では、価値観や文化も多様です。次代を担うみなさんには、世界と関わり、多様な言葉話す人たちと共に生きていく「知恵」が必要です。このゼミでは、実際に国際社会に踏み出し、どうすれば世界の人々をつなげることができるかを、「言語コミュニケーション」の側面から考えていきます。 「平和を創るコミュニケーション(C4P)」は、ユネスコ憲章に基づく概念ですが、グローバルな視点から考える英語教育、国際理解教育、国際協力、国際観光開発の分野においても重要な基盤になっています。国際紛争などのグローバルイシューからも C4P の可能性を考えながら、ゼミではたくさんの英語に触れ、卒業までに 仕事ができる英語力とできれば英語以外の言語(初級) ひとつも身につけてほしいと願っています。 おすすめ対象:卒業後「セカ就!」を考えている学生。生徒たちを世界と繋ぐ英語教師、国際理解教育に関わる、海外の日本人学校で働く、日本語教師の道を探りたい、グローバル企業で働きたい、通訳や映画翻訳を仕事にする、国連や JICA のような国際機関に憧れている。生田ゼミは、そのようなみなさんの世界につながる夢に寄り添う場所だと思います。大学院進学、長期留学を密かに願っている人も、応援しています。 (*セカ就=世界で就職、日本の地域と世界を結ぶ仕事に従事すること。)
ゼミの進め方	3 年生:英語力向上が必須です!ゼミ内での主な言語は英語です。 1. 海外の大学や合同セミナー等によるグローバルリタラシー演習 VLE (Virtual Learning Environment) を活用して行います。 2. Model UN(模擬国連)形式を用いた国際理解演習。 3. NY 国連研修(春)、国際機関でのインターン、ボランティア(夏)、模擬国連、英語教育、国際理解等の学会への参加を奨励しています。 4. 英検準 1 級/TOEIC800 点を目指す、学生による「自主ゼミ」もあり。 4 年生:英語教育、国際理解教育、国際協力(観光も含む)分野の卒論研究の指導をします。日本語で執筆、発表はできる限り英語です。 *以上の内容は、学生の関心/英語力等の諸事情により変更することがあります。
留意事項 (Requirement など)	1. 3 年時(5 セメスター)で「社会言語学」「通訳入門」「平和学」を履修することが望ましい。 2. 9 月中旬の合宿(卒論中間発表・3 年生課題発表)へ参加すること。 British Hills (福島県)または山中湖のペンションで行います。
ゼミ履修に望ましい科目	英語コミュニケーション論、英語教育、国際協力、国際理解の関連科目
募集人数の上限	9 名。卒論等の個人指導の時間を考慮し、最低受け入れ人数としています。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	日本語のエッセーをもとに、英語による面接を行う予定です。
ゼミ受入決定者へ	来春の NY 国連研修は、国際社会を知る大切な第一歩となりますので、できるだけ参加ください。別途、課題図書があります。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	英語が好き+多様な背景を持つ自主性の高い学生が集まり、お互いの体験を共有しながら一緒に世界へ飛び出せるゼミです!英語と国際協力の両方が学べます。ゼミの時間ほか、大学祭の Global Community Café でもお待ちしております。素敵な卒業生たちともしっかりと繋がっていますよ! English for Peace! Shingo/Tomomi/Yuri et.al.

担当者名	井上 由佳 (いのうえ ゆか)
e-mail アドレス	yukai@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6308
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4 限
担当科目	<春>国際学入門、文化政策論、博物館教育論、博物館実習、新入生ゼミナール、専門ゼミナール他 <秋>交流文化論A, 専門ゼミナール、大学院科目他
研究室を訪問できる時間帯	月・水・木の昼休みなど授業時間以外
ゼミのテーマ	文化施設とコミュニケーション
ゼミの内容・メッセージ	私たちは日常的に実体験やメディアを通して、様々な文化に接しています。しかし、全ての接触から私たちは文化を知り、学んでいるわけではありません。それでは、身近にある文化施設をどのような場にしていけば、そこを訪れる人々は心を開き、新しい文化を吸収し、生み出していくのでしょうか。本ゼミでは博物館や美術館といったミュージアム、図書館、音楽ホールといった文化施設に注目し、文化を発信しつつ、人々の声を受けとめてさらに進化する、双方向のコミュニケーションを実現する「場づくり」について学び、実践していきます。 これまでに茅ヶ崎市美術館、海岸青少年会館等の施設でワークショップをゼミ生が主体的に企画し、運営してきました。フィールドワーク、ゼミ合宿には原則として必修参加です。
ゼミの進め方	3年生の一年間で、ミュージアム（博物館、美術館、科学館、水族館など）に関する基礎的な文献を輪読し、レジュメの作成・発表・ディスカッションをします。また各自のコミュニケーション・スキルを磨くトレーニングを同時に進めます。また合宿を含めたフィールドワークでは、ミュージアム仲間と楽しみながら「問題意識を持って見る」練習をしていきます。随時、学外でのワークショップの企画と運営をします。4年生は卒業研究とワークショップの企画に取り組みます。
留意事項 (Requiremnet など)	学外でも活動するため、協調性と責任感を持って行動できることを期待します。
ゼミ履修に望ましい科目	交流文化論 (A, B)、文化政策論、博物館教育論
募集人数の上限	10名 (フィールドワークの引率に大人数は難しいため)
選抜を行う必要性が生じたときの方法	希望調査票の内容から判断し、必要に応じて面接を実施予定。
ゼミ受入決定者への指示	3年になる前の春休みに新3・4年生合同ゼミ合宿を開催します。詳細は追ってメールで連絡します。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	フィールドワークでは、様々なミュージアムを巡り、良かったところ、改善点など意見をシェアしています。皆でミュージアム訪問すると、意見の共有ができるので、とても魅力的です。 茅ヶ崎市美術館では中学生向けワークショップの企画運営をしました。また、茅ヶ崎市の青少年会館で行われる、「はまかぜ祭り」に体験ブースの企画運営をしました。外部の人と関われる機会もあり、楽しむときは楽しみ、やるときはやる、そんなメリハリのあるゼミナールです。 先生はとても優しい方で、ゼミ生と先生の距離が近いゼミです！ミュージアムに興味がある人はもちろん、これからミュージアムを学びたい人、ぜひゼミ見学に来てください！！ from seniors★

担当者名	奥田 孝晴(おくだ たかはる)
e-mailアドレス	okuda@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6406
出講日	月、火、水、木
ゼミの開講時間	木4(3年生)、木5(4年生)
担当科目	[春学期] 国際学入門、近現代史基礎、アジア太平洋経済論、開発経済特論(大学院)[秋学期] 開発経済論、国際理解と経済、近現代史基礎、国際学研究C
研究室を訪問できる時間帯	原則として月～木(たまには金も)は出校している。昼休み、専門ゼミ開講時間、研究室前にある予定表空き時間に訪ねてください。(学部長室にいることも結構)
ゼミのテーマ	「国際学の旅」を続ける:国際学の諸課題、アジアと日本の過去/現在/未来、第三世界論、飢えや貧困の研究、核と市民社会、アジア経済など
ゼミの内容・メッセージ	1年生の「国際学入門」を思い返してください。そこで私が皆さんに投げかけた幾つかの問題を覚えていますか?ゼミはその続編で、それらの問題群を考える「国際学の知の旅」となるものです。たとえば、「アジアの中の日本」、「東アジアの歴史認識と今、これから」、「第三世界の飢えや貧困問題」、「オキナワ、ヒロシマ、ロッカシヨムラ」、「世界の現状/構造の捉えかた」、「経済発展と社会の変動」といった幅広いテーマから、現代国際社会のあり方を理解していきます。また各地の「国際学の現場」を訪ね、自分とのかかわりを模索していきます。こうした問題群に知的関心の有る諸君の参加を求めます。
ゼミの進め方	① 3年次は上記の問題群にかんする基本的文献の輪読と各自の発表に基づく意見交換が中心 ② 4年次は①の中から取り組むべき知的課題を見出し、その問題意識のもとに、卒業論文を執筆する。 ③ 適宜、「国際学の現場を訪ねる旅」を行う。
留意事項 (Requirementなど)	ゼミは「知の共同体」です。学生・教授の区別なく、共に「学び、教え・教えられる」よき仲間作りを目指しましょう。そうした志向を持つ人、それが最大・唯一のrequirementです。
ゼミ履修に望ましい科目	特にはないが、これまでの国際学部での学習をふまえ、上にあげた問題群への理解、知的関心に触れる科目の履修が望ましい。また、ゼミで行う課外研究活動や「国際学の現場を訪ねる旅」に積極的に参加して欲しい。
募集人数の上限	学外での研修を行うことなどをふまえて、最大で10名までの募集とします。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	特定学科に対する優先性ない。所属学科に関係なく希望者全員との面接にて選抜します。(たぶん、選抜の必要はないと思いますが。)選考にあたっては、上記のような問題群への知的関心・真摯な勉学姿勢を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	事前にオリエンテーションを行う。(期日は別途連絡します。)
所属ゼミ生(先輩)からの一言	・奥田先生のゼミは「難しいけど楽しいゼミ」です。貧困問題や開発経済に関するテキストを題材とした毎回の議論はなかなか面白いです。また、太陽光パネルの設置運動や東アジア歴史の英語訳作業、東北一東京論研究会など、ゼミからの「はみだし行為」や長崎や六ヶ所村(青森県)への旅では原子力エネルギーに依存する社会のあり方を考えさせられます。先生が引率するバングラデシュへの研修の旅もエキサイティングでした。基本的にアカデミックな雰囲気を大事にするので、相応に学びに真摯な人に来て欲しいです。でも硬いことだけでなく、夏にはプロジェクトD(中日ドラゴンズ応援観戦)など、ユニークなイベントもあります。一度、訪ねてください!

担当者名	賈 強(か きょう)
e-mailアドレス	jia@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6220
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木4(3年生)、木5(4年生)
担当科目	春学期:現代都市論、地域研究C(東アジア)、消費社会論 秋学期:途上国社会論、中国語Ⅱ
研究室を訪問できる時間帯	特別な事情がない限り、月曜と木曜は必ず出校している。訪問出来る最も確実な時間帯は昼休み(12:30~1:20)。ほかの訪問できる時間帯に関しては、研究室のドアに空き時間表を貼っておくので、確認して下さい。
ゼミのテーマ	中国音楽の世界
ゼミの内容・メッセージ	国際理解は、他の国や地域の政治、経済、社会を理解することだけではない。しかし、残念ながら従来の授業やゼミでは、上述領域に関する内容が授業の殆どを占め、音楽や文学などの「マイナー」分野は貧弱だった。この状況を変えるために、「中国音楽の世界」というゼミを始めようとした。但し、流行歌などの現代音楽ではなく、中国文化の神髄である伝統的音楽・古典音楽(例えば江南糸竹、広東音楽、現代管弦楽にアレンジされた民謡など)をメインテーマとする。これらの音楽は中国文化、中国人の美意識、国民性の形成に大きな役割を果たしてきた。お馴染みの二胡を始め、様々な民族楽器で演奏された優雅なメロディを聞きながら、中国文化への理解を深めよう。
ゼミの進め方	1. 鑑賞の段階:この段階では大量の中国民族音楽の名曲を聴く。 2. 感想の段階:感想を述べてもらい、中国に対するイメージと比較する。 以上は主に3年生。 3. 解説の段階:中国民族音楽の形成(異文化の融合)過程を解説。 4. 思考と研究の段階:中国人の国民性や美意識などの形成における民族音楽の役割を考える。 5. 卒論を書く(テーマは自由) 以上は主に4年生。
留意事項 (Requirementnadなど)	
ゼミ履修に望ましい科目	特にない
募集人数の上限	12名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	希望者全員との面接で選抜する。ゼミのテーマへの関心度、勉強への姿勢を重視する。
ゼミ受入決定者への指示	特別な事情がない限り、一回目のゼミ(2015年度春学期)に必ず出席すること。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	

担当者名	海津ゆりえ
e-mail アドレス	kaizu@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6307
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4 時限目～5 時限目（6 時限目まで延長することが多い）
担当科目	【春】国際学入門、地域プロジェクト演習Ⅰ、エコツーリズム論、地域開発とミュージアム 【秋】観光と国際協力、観光資源論、地域プロジェクト演習Ⅱ、地域のサステナブル・デザイン論
研究室を訪問できる時間帯	月曜日 3 時限目と昼休み、水曜日 2 時限目と昼休み、木曜日昼休み 訪問希望者はメールでアポイントを取ってください。
ゼミのテーマ	エコツーリズムを通して考えるこれからの旅 （サブテーマ：エコツーリズムと地域・自然・人の健康）
ゼミの内容・メッセージ	いま、観光は日本でも海外でも様々な役割が期待される地域発ビジネスへと変貌を遂げています。その典型であり、20 世紀後半に mass tourism（大衆観光）の alternative として生まれた Ecotourism は、tourism business が見落としてきた諸課題を解決し、地域の宝を継承し、人と自然の関係を良い方向へ導くために生まれた概念です。では Ecotourism には具体的に何ができるのでしょうか？ 本ゼミナールでは、この問いかけを学生達が実践を通して解いていきます。特に 2015 年度は「健康」をサブテーマにアプローチします。 地域活性化や自然保護、地域の人々との交流に「観光」の側面からアプローチしたい学生、旅の力を実感し、自分たちで旅づくりにチャレンジしたい学生、大歓迎です。
ゼミの進め方	3 年生は先進地での <u>フィールドワーク</u> と <u>文献研究</u> 、茅ヶ崎での <u>応用演習</u> の 3 つの手法で学びます。フィールドワークでは過疎地域や里山や里海、自然地域などのエコツーリズム先進地への調査合宿を行い、エコツーリズムについて体験的に学びます。応用演習として茅ヶ崎をフィールドとしたエコツアープログラムを作成し、学生がガイドやコーディネーターとなって市民対象に実施します。文献研究は随時行い、理論的体系化を行います。これらの過程で基本的な文献研究や社会調査法を身につけましょう。年末以降はこれらの <u>プレゼンテーション</u> を学外で行う予定です。秋学期終盤から卒業研究テーマの絞り込みを行い、4 年生は <u>卒業研究</u> と <u>卒論作成</u> を行います。
留意事項 （Requirement など）	<ul style="list-style-type: none"> ・3 年ゼミ・4 年ゼミは随時合同で行います。 ・フィールドワークや時間割以外の時間を使ったグループワーク等が多いゼミナールです。 ・ゼミのカリキュラムの他、他大学との共同研究等のプロジェクトが多数ありますので、積極的に参加してください。 ・3 年次には「一人旅」を課します。時間があつたら旅をしましょう。
ゼミ履修に望ましい科目	エコツーリズム論（5 セメ）、観光資源論（6 セメ）はゼミ生必修です。3 年次に履修不可の場合は 4 年次で履修すること。
募集人数の上限	12 名（原則として）
選抜を行う必要性が生じたときの方法	レポート課題を課し、面接を行います。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ生が決定次第、プレゼミを開講します（年内）。春休み中に 2 泊 3 日の合宿を行います。
所属ゼミ生（先輩）からの一言	<ul style="list-style-type: none"> ・エコツーリズムや各種プロジェクトの中であなたの積極性や好奇心を育ててくれる家族のようにあたたかいゼミナールです。（7 期生・8 期生） ・合宿やフィールドワーク等でまとめ役を全員が経験します。良い経験になります。

担当者名	金井 恵里可 (かない えりか)
e-mail アドレス	kanai@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6418
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金曜 4, 5 時限
担当科目	法学(第 2, 第 3 セメスター)、日本国憲法(第 1 セメスター)、憲法(第 3 セメスター)、法と行政 A(第 4 セメスター)、法と行政 B(第 5 セメスター)
研究室を訪問できる時間帯	火曜・水曜昼休み、金曜昼休み～3 限(金曜は事前に問い合わせてください)
ゼミのテーマ	憲法・行政法・地方自治論・在日外国人の人権
ゼミの内容・メッセージ	<p>憲法学・行政法学の基礎知識をもとに、社会問題について調べ、ディスカッションします。</p> <p>憲法は、どこの国でも社会の基本となる法です。一方、行政法は皆さんにとって馴染みが薄いかもかもしれませんが、現代社会では「犬も歩けば行政法に当たる」という言葉があるほど、行政法が私たちの生活に浸透しています。皆さんが社会的関心を抱いている事柄は、きっとどこかで憲法と行政法に繋がっています。</p>
ゼミの進め方	<p>1 学年のゼミを二つのグループに分けます。</p> <p>第 1 グループは、「憲法・行政法を使う仕事に就くこと」を目標にする人たちのグループです。公務員や行政書士を目指す学生が対象です。自治体政策や入管・難民事件のケーススタディを中心に進めます。</p> <p>第 2 グループは、「特定の社会問題に関心があり、その問題を憲法・行政法の観点から考察すること」を目標にする人たちのグループです。個人個人の関心の度合いや関心のある領域に応じて進め方を変えます。</p>
留意事項 (Requirement など)	<p>二つのグループが並行する関係で、j 開講時間が前後する場合があります。</p> <p>3 年生の夏休みから秋学期にかけて、インターンシップ・学外研修に参加してください。</p> <p>公務員志望者・法学系資格試験の受験生には、個人個人の進捗に合わせて、通信講座の受講・参考書の購読等を薦めることがあります。</p>
ゼミ履修に望ましい科目	法学系の科目 2 科目以上 (ただし担当者は問わない。)
募集人数の上限	10 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接
ゼミ受入決定者への指示	1 月中に顔合わせを行うので、出席して下さい。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	<p>*ゼミでは重要判例を読み解きながら、地方分権や自治体の政策について学んでいます。新聞記事のスクラップで時事問題も取り上げるので、就職活動にも役立つと思います。先生は厳しくて優しいです。</p> <p>*金井ゼミに入ると「自分で考える力」が鍛えられると思います。また、身の回りのニュースにも自然と関心を持てるようになり、それに対する物の見方や考え方も深まると思います。少しでも興味がある方は是非一度、金井ゼミに足を運んでみて下さい！</p>

担当者名	北野マグダ
e-mail アドレス	magda@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6412
出講日	月、火、水、金
ゼミの開講時間	金4（3年生）、金5（4年生）
担当科目	Spring: EIC301, 英語表現 A, 英語表現 B, ESP 6, 3年・4年ゼミ Autumn: EIC201, 基礎ゼミ, 翻訳入門, 3年・4年ゼミ
研究室を訪問できる時間帯	Monday lunch, Wednesday 2 nd , Friday lunch, Friday 3 rd
ゼミのテーマ	Culture in Media
ゼミの内容・メッセージ	In this seminar, we will not study English. Rather, we will use English to learn and exchange our opinions. Presentations, discussions, written work, and final theses will be in English. (The degree to which English is used during seminar meetings will be determined by the class and necessity.) The topic is “Culture in Media,” and the class will focus on cultural studies with an international focus through media such as movies, television, journalism, advertising, education, and the Internet. Students will choose one area of interest to study in depth.
ゼミの進め方	Every other week, I will present a new topic followed by discussion. Then students will research more on the topic, and present their findings for further class discussion the next week. Students will write semester reports for the first two semesters. During the final year, students will work on a year-long thesis.
留意事項 (Requirement など)	You must write your final thesis in English. Before coming to get a signature, you must read this page in English. At least a level 3 English class membership is recommended.
ゼミ履修に望ましい科目	Taking an English writing course will aid in writing your reports. I especially recommend my ESP F class. English discussion and debate courses will also help in participating in classroom discussions.
募集人数の上限	13
選抜を行う必要性が生じたときの方法	Interview (in English)
ゼミ受入決定者への指示	Work on your English skills, such as by participating in the Language Garden lunch chats and reading English books and Internet sites for pleasure. Take part in my Bunkyo forum (www.magdakitano.com/bunkyo).
所属ゼミ生(先輩)からの一言	

担当者名	小島 克巳 (こじま かつみ)
e-mail アドレス	kkojima@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6317
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4 限 (3 年生)、5 限 (4 年生)
担当科目	春学期：エアラインビジネス論、ホスピタリティ人材開発ほか 秋学期：交通事業論、エアラインサービス論、テーマパーク事業論ほか
研究室を訪問できる時間帯	出講日 (月・水・木) の空き時間 ※詳細は研究室前に掲示します。
ゼミのテーマ	交通事業・交通政策研究 ～自由化時代における交通事業・交通政策のあり方～
ゼミの内容・メッセージ	私たちは毎日の通勤通学で電車やバスを利用し、休日には航空機、新幹線、高速道路などを利用して旅行に出かけます。小島ゼミではこのような航空、鉄道、自動車交通 (バス・タクシーなど) などの交通機関や空港・道路といった交通インフラなど、さまざま交通分野が研究対象となります。各交通機関の現状や課題といった個別の問題から、交通と観光振興、交通と環境問題、過疎地域の交通問題といった横断的な問題まで、交通に関わる幅広いテーマを取り上げ、議論していきます。 小島ゼミは昨年度からスタートした新しいゼミですので、皆さんと一緒にゼミの歴史を作っていきたいと思えます。
ゼミの進め方	〔3 年次〕春学期では交通政策に関する文献を輪読し、交通事業や交通政策に関する基本的な知識を習得します。秋学期ではそれらの知識を踏まえ、グループごとに研究テーマを設定し調査や研究を行います。また、ゼミ生の理解をさらに深めるために、施設見学や現地調査 (ゼミ合宿) なども実施します。 〔4 年次〕春学期では卒業論文作成のに向けた準備として、各自テーマ設定や研究計画書の作成を行います。秋学期では卒業論文の作成指導を行います。 また、夏休みや春休みにゼミ合宿 (国内外) を実施します。
留意事項 (Requirement など)	交通分野に関心があることはもちろんのこと、ゼミに対して受け身の姿勢ではなく、自分がゼミのためにどのような貢献ができるのかを常に考えられる学生を求めます。
ゼミ履修に望ましい科目	交通事業論、エアラインビジネス論、エアラインサービス論の履修を強く勧めます。
募集人数の上限	10 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	希望調査票の内容にもとづいて面接を実施します。
ゼミ受入決定者への指示	事前オリエンテーションを実施します (別途連絡)。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	・ 輪読やフィールドワークを通して空港や交通機関について学んでいます。ゼミの雰囲気は和やかですが、やるときはやる遊ぶときは遊ぶ、メリハリのあるゼミです。交通・航空関係に興味のある方は、小島ゼミで私たちと一緒に、切磋琢磨しながら学びましょう。 ・ 私たちのゼミは航空や鉄道など、交通事業がテーマです。小島先生を中心に和気あいあいと授業をしています。ぜひ見学に来てください。

担当者名	齊藤 功高 (さいとう よしたか)
e-mail アドレス	saito@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6216
出講日	春学期：火曜日・水曜日・金曜日、秋学期：水曜日・金曜日
ゼミの開講時間	金曜日 4 限 (3 年ゼミ) 金曜日 5 限 (4 年ゼミ)
担当科目	[春学期] 新入生ゼミナール、国際人権法、国際理解と法、特殊講義(環境法)、専門ゼミⅠ(3年)、専門ゼミⅢ(4年) [秋学期] 法学入門、国際機構論、国際環境法、基礎演習、専門ゼミⅡ(3年)、専門ゼミⅣ(4年)
研究室を訪問できる時間帯	火曜日昼休み・4限5限(春学期のみ)、水曜日2限、水曜日昼休み、金曜日昼休み、金曜日4限・5限
ゼミのテーマ	国際法の研究—国際社会を国際法の視点から読み解く—
ゼミの内容・メッセージ	国際法は国際社会の法として国際法主体（国家、国際組織、NGO、個人、多国籍企業）が守るべき法規範である。国際法主体はおおよそ国際法を遵守しているが、時には国際法主体同士の合意形成ができないため、軋轢が生じることがある。また、現実の国際社会は、急速に変化しているので、よく言えば、発展しているので、現状の国際法では解決できない問題が発生する。 そこで、国際法の視点から現状の国際社会の事象を分析し、そこに潜む問題点をえぐり出し、その問題解決にはどのような方法があるのか、また、新しい国際社会の動きに対応する国際法はどうあるべきか等を研究する。 具体的な各自のテーマはゼミ生と話し合いの上、決定する。
ゼミの進め方	① 3 年次春学期は国際法全般に関するプレゼンを行い、その内容についてディベートを行う。春学期の学習のまとめとして最後にレポートを作成する。 ② 3 年次秋学期は個別のテーマに沿ったプレゼンを行い、その内容についてディベートを行う。秋学期の学習のまとめとして最後にレポートを作成する。 ③ 4 年次春学期は、卒論作成に向けて、テーマ及び内容を確定する。概略をレポートとしてまとめる。 ④ 4 年次秋学期は、夏休みを通して書き上げてきた卒論草稿を精緻な卒論に仕上げる。
留意事項 (Requirement など)	① ゼミ合宿を行う(希望者)、②海外研修を行う(希望者)、③4年卒業旅行を行う(希望者)、④その他、学会出席(希望者)
ゼミ履修に望ましい科目	法学入門、国際理解と法
募集人数の上限	専門性を考慮して 9 名を募集上限とする。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	原則として面接を行う。その際の順位は以下の通り。 ①第1順位として国際社会領域所属の学生。 ②第2順位として理解学科の他の領域の学生。 ③第3順として観光学科の学生。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受け入れが決定後、1 2 月あるいは1月に3年生・4年生と顔合わせ会を行う。その際、4月までの指示を行う。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	[3年生から] 国際法はすべてのことに関わっているので非常に役立ちます。話しやすい雰囲気の中、活発に議論しています。先生もおもしろいですよ。[4年生から] 飲み会では、先生や3年生、時には先輩と交流する機会があり、楽しいですよ。合宿も面白いですよ。きちんと勉強しますが、みんなと一緒に行動することで、一層親密感が生まれます。先生はよくダジャレを言うので、雰囲気が和みます。とにかく、メリハリのあるゼミです。

担当者名	椎野 信雄 (しいの のぶお)
e-mail アドレス	shiino@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6314
出講日	月、水、木、金
ゼミの開講時間	金曜日 4限目と5限目
担当科目	[春学期] 交流文化論 B(3)、ジェンダーと教育特論 (大学院) [秋学期] 国際学研究 B(4)、ジェンダーと国際社会(6)、現代思想(6)、 市民社会・ガバナンス特論 (大学院)
研究室を訪問できる 時間帯	出講日の昼休み、専門ゼミ開講時間、水曜日の会議の無い時間。 その他はメールでアポイントメント (訪問予約) をとってください。 研究室のドアのボードを見てください。
ゼミのテーマ	現代社会 (日本社会や国際社会) の実際を社会学の視点で理解します。 特に「市民社会・ジェンダー・教育・交流文化」が中心ですが、現代社会 で起こっていることの全てが、社会学ゼミのテーマ対象となりえます。 自分が関心を持った社会現象の解明を卒論のテーマにして下さい。
ゼミの内容・メッセー ジ	国際観光学科と国際理解学科にまたがるゼミです。 <交流文化> を実践 するゼミです。現代社会 (日本社会や国際社会、地域社会やグローバル 社会) のあり方を社会学のさまざまな視点 (市民社会、ジェンダー、教 育、交流文化などの視点) から理解できる市民citizenシチズンとしての 自分になってこれからの社会について考えてみませんか。私のキーワード 「アンラーン」を理解し、その楽しさを味わってみませんか。「勉強」 をアンラーンし、批判精神を身につけ、自分を見出し、自分の意見を持 って、話し合いのできる人になるように、「大学生」を試してみませんか。
ゼミの進め方	①毎週のゼミでは、「映画で学ぶ現代社会」をテーマに、現代社会で起 こっていることを映像を通して学びながら、ゼミ生同士でディスカッ ションします。各自、見る映画を自分で選び、プレゼンし、毎回、書く力 のために、見た映像についてのコメントを提出してもらいます。 ②現代社会のあり方を理解するための課題 (研究テーマ) を自己決定し、 4年次に卒業論文にまとめます。「大学」的な言語コミュニケーション能 力 (読書聞話) を習得し、2年間で卒論を仕上げていきます。 ③現代社会を理解するために現場を訪れるツアーなども適宜行います。
留 意 事 項 (Requiremnet など)	随時、「映画上映会」を開催実施し、市民活動に積極的に参加してもらい ます。ご協力をお願いいたします。 椎野ゼミナール・サイト(http://www.bunkyo-shiino.jp/) をご覧下さい。
ゼミ履修に望ましい 科目	履修科目において、「覚えること」ではなく、「知る」こと「気づく」こ との面白さを経験したことがある人が望ましい。「学ぶ」ことの快感を味 わったことがある科目を履修したことがある人が望ましい。
募集人数の上限	9名まで。
選抜を行う必要性が 生じたときの方法	面接にて選抜します。面接にあたっては、自己推薦文 (A4一枚) を書 いて来てもらいます。ゼミの内容の理解度を重視します。
ゼミ受入決定者への 指示	決定時から3月までに遂行してもらおう課題についてオリエンテーショ ン (学習指導) をします。2年次の内からゼミに参加してください。
所属ゼミ生 (先輩) か らの一言	本気で学びたい人を大歓迎するゼミです！自分の考えを深め、様々な知 識を知るところでもあります。自分の意見と知識をみんなと交換し、メ ンバーの絆を深めます。 他のゼミに所属してても関心がある人が来ちゃうぐらい面白いゼミで す！ゼミを通して社会学のおもしろさを知れたよろこびは大きく、これ からの人生に生きていくと感じてます。社会のあらゆる出来事の裏側や 背景をはっと気づかせてくれるようなゼミだとも思います！1 番国際学 部らしいゼミなのかなって思います。 私たちのゼミでは映画を見て、自分にとっての「当たり前」を疑い、皆 でディスカッションします。ゼミを通して自分自身のこと、自分が生き ている社会についてアンラーンし、当たり前を見直してみませんか。

担当者名	塩沢 泰子 (しおざわ やすこ)
e-mail アドレス	yasuko@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6315
出講日	月・火・水・木
ゼミの開講時間	3年は木曜4限。4年は木曜5限
担当科目(セメスター)	英語学概論(4)、異文化理解演習(2)、英語とメディア(6)、英語オーラル・コミュニケーション論(4)、英語科教育法Ⅲ(5)、Ⅳ(6)、EIC301(5)、教育実習A(7)
研究室を訪問できる時間帯	月、火、水、木の昼休み
ゼミのテーマ	演劇的手法を活用した英語学習と児童英語教育
ゼミの内容・メッセージ	英語による様々な表現活動(スピーチ、朗読、ドラマなど)に取り組み、表現力、洞察力、共感力を高めます。小学生対象の英語教育活動にも毎週関わり、リーダーシップとグループコミュニケーション能力を磨きます。最も重要な活動は大学祭と12月のオーラル・コミュニケーション・フェスティバル(全国各地の大学が一堂に会して英語パフォーマンスを披露し合う)での創作劇発表。過去に扱ったテーマはカルチャーショック、環境問題、ビジネスマナーなど。ITも駆使したコメディが塩沢ゼミの伝統。卒業研究も論文だけでなく、翻訳、スピーチ、英語劇など多岐にわたります。最終目標は「心豊かなコミュニケーターになること」
ゼミの進め方	3年春学期は演劇の基礎(理論と実践)と、学童保育での英語教育の計画と実践に重点を置きます。秋学期はこれらに加え、大学祭ならびにフェスティバルでの発表活動の準備・練習が中心。4年春学期はスピーチや朗読の理論と実践。秋学期は総合的なオーラル・コミュニケーションの実践に加え、卒業研究を進めます。3年次から適宜進路に関するガイダンスやゼミ生同士の情報交換、自己啓発の文献紹介なども行います。さらに、学期に1回程度、学外の専門家を招いてオーラル・コミュニケーション活動のワークショップを行います。
留意事項 (Requirementなど)	文化祭ならびに12月の大会でゼミ生全員で英語パフォーマンスを発表するのが最重要課題です。それにかかわる練習や合宿などもゼミ生全体で話し合った上で合意を取り、参加していただきます。国内外の大学生との英語による交流や合同合宿も行います。
ゼミ履修に望ましい科目	英語とメディア、英語オーラル・コミュニケーション論、英語学概論
募集人数の上限	12名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	書類(志望動機)と面接によるが、場合によっては抽選もあり得る。
ゼミ受入決定者への指示	12月のオーラル・コミュニケーション・フェスティバルに必ず聴衆として参加すること。春休み中の課題もあります。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	塩沢ゼミは、英語を使って様々な活動をしている active なゼミナールです。毎週、大学近くの学童保育で英語の楽しさを伝えています。最大の行事はオーラル・コミュニケーション・フェスティバルで、他の大学に混じり劇などのパフォーマンスを披露します。ゼミの時間外で活動することもあるため、忙しく、大変な時もあるかもしれませんが、ゼミ生が一丸となって困難を乗り越え、無事成功した時の達成感はひとしおです。とにかく英語で何かやりたい!というやる気のある人におすすめです。※聳塔祭でも劇等のパフォーマンスを上演しますので、興味のある方はそちらも是非お越しください。

担当者名	菅原周一
e-mail アドレス	suga8216@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6415
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	2015 年度から開講の予定です (木曜 4 限、5 限を予定)。
担当科目 (セメスター)	新入生ゼミナール (1)、基礎ゼミ (2)、英語コミュニケーションスキル演習 (3)、日本経済論 (3)、金融論 (4)、国際観光と会計 (4)、国際金融論 (5)
研究室を訪問できる 時間帯	月 (2 限、昼休み)、木曜 (昼休み、3 限) なお、訪問の際はメールで予約していただくと良いです。
ゼミのテーマ	「インベストメント (投資論)」と「コーポレート・ファイナンス (観光 関連企業を中心とした企業価値評価等)」
ゼミの内容・メッセー ジ	観光関連企業等を主な対象として、ファイナンス論を構成する 2 つの中 心分野 (インベストメントとコーポレート・ファイナンス) から、企業 経営の在り方 (経営の立場)、投資家としての考え方 (資本提供者の立場) について検討します。これらのことを学ぶ過程で、日本経済や金融に関 する基礎知識やフィナンシャルプランナーと証券アナリストに求められる 重要な概念および専門知識を習得することができます。(外資系を含め た金融機関への就職を希望している方に必要なファイナンスに関する基 礎知識も習得できます。)
ゼミの進め方	3 年の春・秋学期でインベストメントとコーポレート・ファイナンスに 関する書籍、文献を輪読しながら、各自で研究テーマ (卒業論文テーマ) を確定し、4 年春学期から研究テーマの検討を進め、ゼミ内でプレゼン テーション、ディスカッションを行いながら秋学期に卒業論文執筆を行 います。なお、書籍、文献の輪読と並行して、外部機関が提供している いろいろなイベント等にも参加する予定です。 これらのことを通して、社会人として必要な基礎能力と応用力、実践力 を身に付けるようにします。
留 意 事 項 (Requirement など)	やる気があることが重要です。ゼミ合宿も予定しています (希望者のみ で、強制ではありません。)
ゼミ履修に望ましい 科目	特にはありません。
募集人数の上限	外部機関が提供しているイベント等に参加する関係で 10 名
選抜を行う必要性が 生じたときの方法	希望者全員に対して面接を行います。
ゼミ受入決定者への 指示	個別に面接を行うとともに、オリエンテーションを行います。
所属ゼミ生 (先輩) か らの一言	2015 年度から開講の予定ですのでありません。

担当者名	杉山 富士雄(すぎやま ふじお)
e-mailアドレス	sugiyama@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6212
出講日	火、水、金(秋学期)
ゼミの開講時間	金4
担当科目	経済学、産業組織論、(観光企業の競争戦略)、観光ビジネスの経済学
研究室を訪問できる時間帯	火曜日と金曜日の昼休み
ゼミのテーマ	『エアラインの産業組織、観光企業の競争戦略、「観光立国」戦略の検討及びホスピタリティ・マーケティング、テーマパーク事業論』
ゼミの内容・メッセージ	観光ビジネス(エアライン、旅行、飲食、ホテル)企業の競争戦略とベンチャー・ビジネス研究。とくに航空ベンチャーの理論的研究。日本経済・開発経済論にも対応可。
ゼミの進め方	学生の自主的発表を重視する。テーマパーク事業、観光ニッポンの推進や商店街の活性化などの日本経済新聞を読む。2014年度(3年次)には、新興国インドネシアのバンドン研修旅行。ここはアジア・アフリカの留学生が集まり、インドネシアの中でも観光サービス業が急成長している街に旅行。2015年度(4年次)にルーマニア、ハンガリー、ポーランド、チェコ、ウクライナなど東ヨーロッパへのゼミ旅行を予定しています。私の本来の専門研究分野の「体制移行国」の諸地域をスタディ旅行します。現在航空規制緩和とLow Cost Carrier の理論的研究に関心があり、徐々に本来の研究分野からその分野(交通・運輸事業)に研究テーマをシフトさせつつあります。
留意事項 (Requirementなど)	
ゼミ履修に望ましい科目	経済学、経営学、法学など社会科学系の科目
募集人数の上限	9名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接
ゼミ受入決定者への指示	なし。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	

担当者名	鈴木 正明
e-mail アドレス	suzukim@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6 3 1 2
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木曜日 4 限
担当科目	春学期：国際観光と起業、ソーシャルビジネス論、キャリア形成 B など。 秋学期：ビジネス倫理、観光ビジネスプロジェクト演習など。
研究室を訪問できる時間帯	出講日の昼休み。 その他、訪問可能な時間帯を研究室のドアに掲示します。
ゼミのテーマ	アントレプレナーシップ（起業論）
ゼミの内容・メッセージ	新しく誕生した企業の経営や、起業（ビジネスを新たに始めること）の現状などについて勉強していきます。自ら起業する場合だけではなく、就職先（勤務先）で新事業の立ち上げを担当する（これも起業活動です）際にも役立つようなゼミにしたいと考えています。意欲的な皆さんと、楽しくまた学びの多いゼミにしていきたいと思っています。
ゼミの進め方	経営学の理論に基づき起業活動を研究していきます。まず初めに、経営戦略や起業に関する基本的な文献を講読。そこで得た知識を活用して、事例分析（ケーススタディ）やフィールドワーク（起業家へのヒアリング等）を行います。加えて、また調査データを用いて、起業家の特徴や、起業活動の成功（失敗）要因といったことを研究していきます。一般の起業とともに、地域や社会の課題を解決することを目的とする企業（ソーシャルビジネス）も取り上げたいと考えています。
留意事項 (Requirement など)	夏休みにゼミ合宿（起業家へのヒアリングなど）を行う予定です。なお、神奈川産学チャレンジ（企業から与えられた課題への解決策を提案するプロジェクト）にも参加しています。
ゼミ履修に望ましい科目	「国際観光と起業（起業論）」をできるだけ履修してください。
募集人数の上限	11名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接等により決定します。
ゼミ受入決定者への指示	決定後、オリエンテーションを行います。
所属ゼミ生（先輩）からの一言	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちのゼミでは起業についての講義を軸にして、業界分析や経営手段についての勉強を行っているので様々な分野についての学びを深めることができます。 起業に興味ある！ 組織を作りたい！という方、また進路にまだ迷っている、やりたいことがまだ見つからない方など、どんな方でも大丈夫です。一番大事なのはゼミに対する意欲的な姿勢です！ 自分たちのやりたいことに巡り合い、打ちこむことができる、そんな鈴木ゼミに是非お越しください！ お待ちしてます！！ ・ 当ゼミは、雰囲気ゆるやかなゼミです！ でもやらなきゃいけないところはしっかりやっています。切り替えがあるゼミなので楽しいです！ 起業や会社の戦略に興味ある方、ぜひ来てください。

担当者名	高井 典子
e-mail アドレス	takai@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6310
出講日	火、水、金
ゼミの開講時間	金 4 (3 年生)、金 5 (4 年生) …時々2 限続きで合同ゼミを開催
担当科目	国際観光論(2)、英語コミュニケーションスキル演習(3)、トラベル・ビジネス論(4)、旅行法規(5)、専門インターンシップ(6)、新入生ゼミ、基礎ゼミ、専門ゼミ+大学院科目(国際ツーリズム特論)(観光行動特論)
研究室を訪問できる時間帯	火曜・金曜のお昼休み 他の日時についてはメールでアポを取ってください。
ゼミのテーマ	トラベル・ビジネス 観光行動 グローバル化した社会と観光
ゼミの内容・メッセージ	<p>高井ゼミにはA面とB面があります…</p> <p>ゼミA面ではビジネスとしての観光・トラベル（インバウンド&アウトバウンド）を観光行動研究をベースに学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行する人の意思決定や行動はどのようにして決まるのか？ ・国籍、ライフコース等によって観光行動はどのように異なるのか？ ・旅行を通じた経験をひとはどのように評価し意味づけするのか？ <p>…等々の問いに答えるためのリサーチ手法や観光行動理論を学んだうえで、ツアー商品の創り方を学びます。具体的にはゼミ生でチームを組み： 【若者向けの海外ツアー商品企画プロジェクト】 【訪日外国人向けツアー商品企画プロジェクト】 を行います。</p> <p>旅行業界に関する知識だけでなく、幅広い分野で必要とされるリサーチ力、分析力、企画力、プレゼンテーション能力を養います。</p> <p>ゼミB面ではビジネスとしての観光・トラベルという現実を取り巻く、より大きな社会環境に目を向け、グローバル化した社会において観光が持つ意味や課題を批判的に考察します。新聞記事やゲスト講師のお話をもとにディスカッションします。</p> <p>★こういう学生におすすめです↓↓↓ 高井ゼミのミッションはA面B面の活動を通して「今ここにある世界を生き抜く力」と「現実を批判しつつも、現実世界にはたらきかけ変えていく志、発想、行動力」を養うこと。学科を問わず、このミッションに共感する方をお待ちしています。(それと関西弁 OK の方。)</p>
ゼミの進め方	3 年生は観光行動、トラベル・ビジネスの基礎文献の輪読と講義を行いながら、他大学とのコンペやコンテストでの入賞を目指して、サブゼミでツアー商品企画開発プロジェクトを進めていきます (A 面)。並行して国際観光に関する時事問題についてのディスカッションを行います (B 面)。3 年生の終わりまでに卒業論文の大まかなテーマ決めを目標にします。4 年生は春セメの間に卒業論文のテーマを確定し、夏休みから秋セメにかけて執筆を行います。
留意事項 (Requirement など)	ゼミは 2 年次 1 月のプレゼミからスタートします。春休み中にプレゼミ合宿を行い、全員でゼミの方針を決めます。3 年次には北海道ニセコへの合宿を予定しています。
ゼミ履修に望ましい科目	国際観光論、トラベル・ビジネス論、旅行法規を履修していることが望ましい。履修していない場合は、これから履修をお願いします。
募集人数の上限	11 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	全員と個人面接を行います。 必要に応じてレポートを課す場合もあります。
ゼミ受入決定者への指示	2 年生のあいだに数回プレゼミを行う予定です。
所属ゼミ生 (先輩) から の一言	(学生にひと言お願いするのを忘れていました…ゼミ生主催のゼミ説明会がありますので、そこで直接聞いてください<(_ _)>)

担当者名	千葉 克裕
e-mail アドレス	ch1ba@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6304
出講日	火 水 木 金
ゼミの開講時間	木4 (3年) 木5 (4年)
担当科目	CALL, EIC301 英語科教育法Ⅳ
研究室を訪問できる時間帯	昼休み、空き時間にどうぞ。ゼミの見学を希望する学生は事前に申し込んでください。
ゼミのテーマ	英語教育学 第2言語習得理論 応用言語学
ゼミの内容・メッセージ	<p>英語教育学・応用言語学・学習心理学など、主に「英語を教える視点」と「英語を学ぶ視点」両方から言語習得について研究します。初めは日本語を通して理解していた英語をいつの間にか直接理解出来るようになるプロセスなど、第2言語を習得するプロセスを解明し英語教育に応用する方法を探ります。</p> <p>研究の基礎として、大量の文献を読むための読書法、思考の整理法(マインドマップ等)など「学び方」を学ぶことにも重点を置きます。また、積極的な英語学習を通して、学習者の視点から研究テーマの種を探します。研究テーマにかかわらず、自分の興味関心に従って学問的問を立て、調べ、まとめ、発表する力を養うことが最大の目的です。</p> <p>科学的根拠に基づき論理的に議論する能力を身につけ、高い英語力と理論に基づいた英語教育を実践したい人の参加をお待ちしています。</p>
ゼミの進め方	<p>3年春学期：基礎的研究力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考の整理法、ノートの取り方(マインドマップ) ・本の読み方(読書法)とまとめ方・発表の仕方 ・英語科教育法の入門書を輪読しながら研究の方向性を模索 <p>3年秋学期：研究のためスキルアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献研究の方法(文献検索・研究カード整理法) ・原書講読 ・先行研究レビューとゼミ発表 ・研究テーマのダウンサイジング ・コンピュータスキルと統計基礎 <p>4年：研究論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究デザインの決定とデータ収集 ・データ分析と論文作成
留意事項 (Requirementなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の研究室訪問で十分な説明を受けない場合はサインしません。 ・かなり沢山の読書を要求しますので、読書習慣を確立しておくこと。 ・授業外のマインドマップ講座は要教材費 ・ゼミ合宿有り
ゼミ履修に望ましい科目	言語学、英語学など英語教職課程に必要な諸科目、および心理学、統計学など
募集人数の上限	9名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	①教職課程履修者、特に教員採用試験受験予定者、②学習塾など英語を教える職業を希望している学生 ③CASECスコア
ゼミ受入決定者への指示	英検やTOEICを必ず受験し、有効なスコアを提出すること。 春休み中の読書課題リスト有り。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	千葉ゼミにはこれまでの自分を見直し、変えるきっかけがあります。今まで漠然と授業を受けて、とりあえず単位を取ってきた今までの姿勢が、このゼミで教えてもらったマインドマップによって劇的に変化しました。授業の集中力が向上し、理解度も高まりました。3年生は全員英語教職を取っており、理論に重点をおいて教師に必要な能力を輪読とディスカッションを通して学習しています。英語学習はレシテーションをしています。「俺はまだ本気を出してないだけ」が口癖のあなた！我々はあなたのような方をお待ちしております。遊びも勉強も一切手を抜かせません。是非千葉ゼミで充実した2年間を過ごしましょう！

担当者名	Cary A Duval
e-mail アドレス	duval@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6411
出講日	火、水、金
ゼミの開講時間	金日 3:00
担当科目	EIC 101, EIC 102, EIC 103, EIC 104 CALL I
研究室を訪問できる 時間帯	金曜日 4時限か5時限 (ゼミ) 火曜日か金曜日 12:30-1:10
ゼミのテーマ	Minority Rights and Intercultural Communication 異文化コミュニケーション Using English for research or business report writing and oral communication skills need in business, education or leisure industry
ゼミの内容・メッセージ	Come to my seminar if you wish to learn more about minority language rights and if your wish to improve you English skills. You will have the chance to improve use of English for research, presentation and regular communication. Come with a great attitude to learn and you will improve in language and cultural understanding of the hidden factors of communication.
ゼミの進め方	Reading, writing, discussion and presentations. Also, workshops in summer or winter either here or in foreign countries We will try to make plays showing cultural differences in order to practice oral English as well as body English. I hope to lead the students on a tour to Central Asia to see how the Silk Road actually functioned as a major transporter of culture and globalization in ancient times. The seminar may also travel to the US to study minorities there. The students may make short plays to demonstrate English conversation in various cultures or situations (like hotel or travel).
留意事項 (Requirement など)	
ゼミ履修に望ましい 科目	EIC 101-EIC 104, CALL 101-CALL 104
募集人数の上限	10人
選抜を行う必要性が 生じたときの方法	Second interview
ゼミ受入決定者への 指示	e-mail and telephone
所属ゼミ生(先輩)か らの一言	If you want to study English, human rights, minority rights and inter-cultural communication, you should join Duval seminar! It's fun, too! Y.H. 3 rd .

担当者名	那須一貴 (なす かずたか)
e-mail アドレス	knasu@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6409
出講日	火、水、金
ゼミの開講時間	金 4 (3年生)、 金 5 (4年生)
担当科目 (セメスター)	国際観光とビジネス (3) プロジェクトマネジメント (3) 観光ビジネスプロジェクト演習 I (理論) (3)、観光ビジネスプロジェクト演習 II (応用演習) (4)、専門インターンシップ事前研修 (5)、経営学入門 (2)、キャリア形成基礎 (2)、新入生ゼミナール (1)、基礎ゼミナール (2)
研究室を訪問できる時間帯	研究室の扉に在室時間が書いてあります。どうぞ気軽に訪問してください。
ゼミのテーマ	経営管理、経営戦略、業務改革など、企業経営に関わる問題解決方法について実践を通じて学びます。
ゼミの内容・メッセージ	本ゼミでは、「即戦力ビジネス・パーソンを育成する」ことを目的とします。即戦力ビジネス・パーソンとは、ビジネスに関する知識はもとより、自ら課題を見出し解決することができる能力と、リーダーシップ、協調性、高度なプレゼンテーション能力を身に付けた人材です。これらの能力を身につけるため、当ゼミでは 2014 年度は、 ① 課題解決型プロジェクト(神奈川産学チャレンジ) への参加 ② 志賀高原での「観光情報提供カフェ」の運営 ③ 京王電鉄バス(株)に対する新宿乗合バス収入アップ戦略の提案 ④ 「リーダーシップ研修」(年 2 回、土曜日開催) ⑤ 就職シミュレーションへの参加(年 2 回、土曜日開催) といった活動にゼミ生が意欲と負荷に応じて選択的に参加しています。
ゼミの進め方	① 3 年次は文献購読に基づく学生による討議と企業分析発表を行います。サブゼミとして上記課題解決型プロジェクトを行い、実践力を高めます。3 年後期には財務会計の基礎を学び、数字でビジネスを考える力を身につけます。 ② 4 年次はビジネスケースを用いたケーススタディを中心にを行います。様々な企業の事例をゼミ生とともに議論しながら分析していきます。この活動を通じて学んだ知識を実践でどう使うか、を身につけます。
留意事項 (Requirement など)	
ゼミ履修に望ましい科目	
募集人数の上限	14 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	志望者全員と面談を行います。ゼミに対する熱意、知的関心、真摯な勉学態度に加えて協調性と責任感を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	オリエンテーションを行います(期日は別途連絡します)
所属ゼミ生(先輩)からの一言	私たちは実践を踏まえながら経営学を学んでいます。仕事とは何か、チームワークとは何かを考えながら、仲間と共に切磋琢磨できるゼミです！チャレンジ精神と熱意のある方、ぜひお待ちしております！(3年生) 学生生活を充実させたい、社会人基礎力を身につけたい！とお考えの方にお勧めのゼミです。那須ゼミでは、実践的な活動の他にもケーススタディを通して、経営者側の視点になって考える力を身につけます。同時にプレゼン能力やチームマネジメント力も向上します。今の学生生活に満足していますか？「本気」で取り組んで得られる達成感は格別です。まずは 6409 那須一貴研究室にお越しください。質問・雑談、大歓迎です。(4年生)

担当者名	林 薫 (はやし かおる)
e-mail アドレス	hayashi@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6306
出講日	(月)、火、水、木 (春学期)
ゼミの開講時間	木曜日 4限 5限
担当科目 (セメスター)	国際理解論 (2) 地域研究Dアフリカ (3) 開発と国際協力 (4) 資源と国際協力 (4) NPO とボランティアの理論 (3) 国際協力実地演習 (4)
研究室を訪問できる 時間帯	月曜日 (3、4、5限)、火曜日 (終日)、水曜日 (午前中) 木曜日 (2限)
ゼミのテーマ	開発学＝開発と協力の公共政策学です。途上国がどのようにして発展していくことができるか、そのためにどのような協力を行っていくべきかを主要なテーマにしています。特に、人々の所得の向上による貧困の削減に重点を置いています。
ゼミの内容・メッセージ	途上国への協力の理念、理論、方法など、実践経験を踏まえた具体的な内容です。現在あるいは将来何らかの形で国際協力の分野で仕事をしたり、市民としてかかわったりする際に必要な知識、スキル、心構えなどを学びます。また、途上国への開発協力は援助だけではなく投資、貿易、移民など幅広い分野が関係しています。国際的な業務で必要な基本的な能力の獲得も目指します。
ゼミの進め方	3年生の春セメスターは開発学と開発協力の基本的な考え方を学んだあと、途上国の農村の開発の具体例を使って、村人になってロールプレイング方式で生活の向上について実習を行います。秋セメスターでは、ゼミ生の関心の領域について、研究発表とレクチャーを組み合わせて、知識を深めます。4年生の春セメスターでは、討論形式でゼミ員全員が理解と関心を深めながら、各ゼミ生のテーマを決定します。秋セメスターでは卒業論文の作成指導を行います。
留意事項 (Requirement など)	毎年夏に、任意参加の「スタディー・ツアー」を実施し、途上国の現実を学びます。また、他大学との交流や学外のイベント参加なども積極的に行っています。聳塔祭へ参加しますのでご協力お願いします。
ゼミ履修に望ましい 科目	2年生の秋セメスターの「開発と国際協力」「資源と国際協力」をぜひ履修してください。
募集人数の上限	11名
選抜を行う必要性が 生じたときの方法	面接で選抜します。面接で重視する点は、問題意識を持っているかどうか、議論やゼミ活動に積極的に発言できるかどうかなどです。
ゼミ受入決定者への 指示	決定したら、3、4年のゼミになるべく顔を出すようにしてください。ゼミの機関は短いので、2年生のうちから学習指導を行いたいと思います。
所属ゼミ生 (先輩) から の一言	林ゼミはとても楽しく学べるゼミです。途上国の貧困問題や開発協力のあり方などを理解し、問題解決の方法を学びます。そのための、途上国の村を舞台にしたワークショップを行います。また、恒例のスタディー・ツアー(今年はインド)を予定しており、聳塔祭ではその報告などを行います。 とてもアットホームなゼミなので、気軽に見学しに来てください！(3年生)

担当者名	藤井 美文 (ふじい よしふみ)
e-mail アドレス	fujii@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6416
出講日	月、水 (秋学期)、木
ゼミの開講時間	木曜 4 限 (3 年生)、5 限 (4 年生)
担当科目	リスク社会と環境 (秋学期、水) 環境経済学 (秋学期、木) 地球環境論 (秋学期、月、木) 現代社会のエネルギー論 (秋学期、月) 環境協力論 (秋学期、木)
研究室を訪問できる時間帯	月、水、木の昼休み 木曜日のゼミ時間 (4 または 5 限) 火、金でも大学に来ていれば対応可能
ゼミのテーマ	1) 環境経済学を柱とする環境問題 (ゴミ、温暖化、リサイクルなどの問題と政策のありかた) 2) 環境問題と意思決定や環境教育に関する問題 (参加と環境ガバナンス) 3) 環境 (主に廃棄物) 領域における国際協力 (過去タイ、中国などの実践事例あり)
ゼミの内容・メッセージ	ゼミの活動を通じて共同あるいは単独で卒論を仕上げるのがテーマ。自ら調べ、ストーリー・ラインを作る中で苦しみながらも卒論を作成することは、大学に来た証であるとともに、きっと大きな自信になるはず。大学生活で“一つ仕上げてやろう”という意欲のある学生に来て欲しい。
ゼミの進め方	3 年次は教科書を選んで輪講し、各自が基礎知識を学ぶとともに、レジュメの書き方やパワーポイントでの発表の訓練をする。また、過去、夏休みに海外に廃棄物問題などの調査に出ている (10 万円強の費用が必要)。2 月にいくつかのゼミ間で発表会を開催している。 4 年次には卒論テーマを夏前には確定し、11 月頃からは本格的に卒論を仕上げる (過去のテーマに関しては研究室にて紹介)。
留意事項 (Requirement など)	過去数年、3 年次の夏休みに海外に廃棄物政策やリサイクルに関する調査研修旅行に出かけており、10 万円強の費用を要している。
ゼミ履修に望ましい科目	環境経済学 (3 年秋学期の月 2 限) は経済学の基礎をも教えるので是非取ってほしい。
募集人数の上限	最大 10 名 (学生とのコミュニケーションを重視したいので、あまり多人数は取らない)
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接 (ゼミで学び、卒論を書くという意欲と志望動機を重視)
ゼミ受入決定者への指示	各自にメールで周知
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	藤井ゼミでは 3 年生で環境経済学の本を読み進めて知識やプレゼン能力を蓄え、4 年生での卒論に備えます。教員と学生が垣根なく議論ができる楽しいゼミです。(3 年次の海外ゼミ研修は、ここ 5 年間中国 2 年連続、マーシャル、ベトナム、マレーシアで、いずれも実際のごみ処分を視察し、政策担当者らと議論をしてきました)。このゼミでは、先生がとてもよく面倒を見てくださるので自分自身の成長を感じられます (本人のやる気にも依りますが・・・)。メンバーと協力して課題を進める機会や達成感を感じることがあり学生生活をより一層充実させるゼミだと思います。

担当者名	黛 陽子
e-mail アドレス	mayuzumi@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6417
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木曜日 4 限
担当科目	新入生ゼミナール、基礎ゼミナール、生態系と人間、外国語文献研究、国際観光とデザイン、インタープリテーション論（理論・応用演習）
研究室を訪問できる時間帯	昼休み、月、水
ゼミのテーマ	インタープリテーション「知る→伝える→つなぐ→解決策」
ゼミの内容・メッセージ	観光地の、リゾートでのアクティビティなどの華やかな一面をオモテとし、環境・貧困・住民問題などをウラとします。本ゼミでは、インタープリテーションを導入することで、観光地のオモテの部分だけを知って帰る観光客を育てることではなく、オモテとウラの両方をバランス良く知り、その地を理解し、問題に気がつき、それに対する行動が取れる人々を育てられる人材となることを目的としています。つまり、私たちが解説し、プレゼンテーション技術で相手をひきこむ、そして問題解決の架け橋となり、行動する手助けをする。バリ島ではこの一連の内容について、ゼミ生は現場で直接学ぶ機会を持ちます。
ゼミの進め方	インタープリテーション理論の基礎から学びます。インタープリテーションは、机上だけでは理解しにくいいため、野外活動でインタープリターを見る、企画し実践する機会を多く持つことで学びを深めます。メディア論は、デザイン論の学習や映像制作の実践により、社会に発信する課題に取り組みます。バリ島では、観光基本情報（表と裏）調査と発表→現地を見る（観光地と国際協力の現場）→課題の映像制作→現地とつなぐ活動（学祭出店も）→問題解決研究（卒論）の流れです。卒論では、社会調査を用いて現状把握をし、解決策の提案を行うことを期待します。
留意事項 (Requirement など)	インタープリテーションの課題発見は、自ら地に足の着いたフィールドから現実を直視する必要があります。本ゼミでは、バリ島をフィールドとし、全員がバリ島ゼミ合宿に参加することを希望します（要相談）。
ゼミ履修に望ましい科目	生態系と人間、国際観光とデザイン、インタープリテーション論（理論・応用演習）
募集人数の上限	12名（応募状況による）
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接を実施する。
ゼミ受入決定者への指示	『インタープリテーション入門—自然解説技術ハンドブック』日本環境教育フォーラム著、『森林インストラクター入門』林野庁著 を読む。
所属ゼミ生（先輩）からの一言	黛ゼミではインタープリテーションの基礎を学びながら、理解を深めるためにバリ島の表と裏を事例としてゼミ生で研究しています。バリ島合宿では研究したことを自分達のみで確かめられるはずですが、また課外活動やプレゼンの機会も多く、様々な事を経験しながら成長できるゼミです。毎週和気あいあいとした雰囲気の中で楽しくゼミ活動を行っています！

担当者名	宮原 辰夫(みやはら たつお)
e-mailアドレス	miyahara@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6405
出講日	金曜日
ゼミの開講時間	金4(3年生)、金5(4年生)
担当科目	地域研究F(南アジア)
研究室を訪問できる時間帯	昼休みあるいは3限
ゼミのテーマ	「自分たちのまちおこし」「持続可能な社会」
ゼミの内容・メッセージ	「まちおこし」は決して新しいテーマではないが、人口減少と高齢化が進む日本においても、経済発展著しいアジア新興国においても、衰退する地方や地域を持続可能なものにするためにはどうすればよいのかというテーマは取り組みべき重要な課題です。なぜなら、「まち」の崩壊は地域住民の生活の破たんだけでなく、アイデンティティの喪失にもつながるからです。「まちおこし」は、「まち」を鳥瞰図的に眺める、つまり頭で「まち」の全体像を考えながら、それは「まち」の強み、「まち」の資源(宝)を発見することからはじまるといえます。統計資料を使いながら、あるいはフィールド調査を通して、持続可能な「まち」や「社会」のあり方をみんなで考えませんか。
ゼミの進め方	テーマに関する資料(著作・資料)の精読とフィールド調査
留意事項 (Requirementなど)	
ゼミ履修に望ましい科目	地域研究F(南アジア)
募集人数の上限	10名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接とレポート
ゼミ受入決定者への指示	決定後に一度顔合わせをします。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	

担当者名	本浜 秀彦
e-mail アドレス	motohama@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6311
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木4限、5限
担当科目 (セメスター)	「現代日本の諸問題」(2)、「日本の地理と歴史」(3)、「日本ポップカルチャー論」(5)、「比較文学」(6) など
研究室を訪問できる時間帯	月、水、木の昼休み(加えてゼミ訪問用の「オフィスアワー」を何回か設けます。日時は私の研究室のドアに掲示します。)
ゼミのテーマ	国際日本研究(「日本事情」の括りを広げています。)
ゼミの内容・メッセージ	<p>多様な「日本」のすがたかたちを、各地域の歴史、伝統文化、現代ポップカルチャー、そして海外との比較などから捉え直し、それを英語で発信する、というのが私のゼミの目標です。</p> <p>研究の出発点として重要なのは、当たり前の「日本」を疑ってかかること、そしてどっぷり慣れきってしまっている私たちの「日常」をめぐり返すこと。そこから学問的関心も問題意識も芽生え、オリジナリティーあふれるテーマも見つかるはずです。私の役割は、そのテーマの「さばき方」を、伴走しながらコーチングしていくことでしょうか。</p> <p>日本の大学のゼミの授業は、日本の大学がつくり出した、世界に誇る教育システムだと考えています。その「主役」である学生の皆さんが、積極的かつ自主的にゼミに関わってくれることを期待します。</p>
ゼミの進め方	<p>「日本」の捉え方は人それぞれですし、また「日本」への学問的なアプローチ方法もいろいろあります。ですから卒論のテーマは、基本的には(文学研究者である私が指導できる範囲で)何を選んでも構いませんが、「日本」を再考するための問題意識を皆で共有することも重要だと考えており、現在は岡本太郎を取り上げてゼミを進めています。</p> <p>太陽の塔のデザインや「芸術は、爆発だ」などの発言で知られる太郎は、縄文土器や東北、沖縄の文化を再評価するなど日本文化論のユニークな論客としても知られています。ゼミでは、彼の絵画、造形物、写真などの鑑賞、分析なども行いながら、その日本文化論、芸術論を手掛かりに日本文化を多角的に考察します。その上でわたしが文化の創造にどう関わることができるかを探ります(就活時の面接でアピールを!).</p> <p>実は、もう一人、焦点を充てたい「大物」がいます。マンガ神様・手塚治虫です。手塚マンガそのものより、むしろ彼が捉えた「日本」に注目し、戦争と平和、ロボット、原発、カワイイ文化、ディズニーなど現代日本の諸問題・現象につなげて考察することを目論んでいます。</p>
留意事項 (Requirement など)	3年生対象のゼミ合宿には、万難を排して参加してください。これは私のゼミ受入れの重要な条件です。合宿参加のためのスケジュール調整、費用の準備が必要になることを予め承ください。これまで、京都(1泊2日)、沖縄・西表島(4泊5日)でのゼミ旅行、合宿を実施しました。2015年度は、山形、東京島嶼部などを行き先として検討しています(短い泊数で2回実施の可能性もあり)。他大学とのインターゼミもぜひ実現させたいと考えています。
ゼミ履修に望ましい科目	「現代日本の諸問題」、「日本の地理と歴史」、「日本の伝統文化」、「博物館展示論」など
募集人数の上限	9人
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接と作文(最近読んだ本[小説、マンガ、一般書など、あるいは観た映画、アニメ、テレビドラマ、演劇など]の感想文を800字程度で)
ゼミ受入決定者への指示	本を読むこと、旅に出ること、人に出会うこと——ぜひ学生時代にやってください。本や新聞を読む習慣をつけてもらうための指導をゼミ決定後から行います。英語も必要とあらばビシバン鍛えるつもりです。

担当者名	山口 一美 (やまぐち かずみ)
e-mail アドレス	yamaguch@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6316
出講日	火、水、金
ゼミの開講時間	金4 (3年生)、金5 (4年生)
担当科目	[春学期] キャリア形成基礎、観光心理学、観光サービス、観光ビジネス論、 [秋学期] 国際観光とホスピタリティ、キャリア形成A、観光資源マネジメント特論 (大学院)、観光サービス・マネジメント論
研究室を訪問できる時間帯	訪問していただける時間を研究室のドアに貼っておきます。それを見ていらしてください。
ゼミのテーマ	観光事業とホスピタリティ・マネジメント
ゼミの内容・メッセージ	観光事業 (エアライン、ホテル、旅行、レジャー、飲食など) におけるホスピタリティ・マネジメントについて、1) 新しい観光事業ならびに高収益をあげるホスピタリティ・マネジメントのあり方を研究する。また、2) 海外と日本のホスピタリティのあり方について比較、検討する。さらに3) 観光事業においてどのような人材が必要とされ、顧客満足を促進させるのか、あるいは従業員満足に必要な要因は何か、など人に関わる要因を取り上げ、心理学的な視点から考察する方法を学ぶ。
ゼミの進め方	①上記の1) 2) 3) に関して、課題図書、資料を使って学び、討論、発表を行う。その上で学生自身が興味のあるテーマを選択し、研究、調査、発表を実施する。これらの学習を通してホスピタリティ・マネジメントおよび卒業論文のテーマに関する知識を習得、プレゼンテーション能力、論理的思考の育成を行う。 ②フィールドワーク (観光事業を訪問) を行い、高収益をあげているホスピタリティ・マネジメントのあり方についてインタビュー調査、質問紙調査を行う。今まで実施したフィールドワークは、沖縄訪問 (美ら海水族館、プセナテラスホテル、沖縄ワタベウエディングなど)、日本航空客室乗務員室・整備場訪問、ユニバーサルスタジオジャパン訪問、長野県小布施町訪問、北海道旭山動物園などである。訪問先について学生と討議して決定する。③3・4年生合同合宿において、顧客満足、従業員満足などテーマ別にグループ討論、発表を行う。
留意事項 (Requirement など)	
ゼミ履修に望ましい科目	できればホスピタリティ・マネジメント論、サービス・マネジメントを学習しておいて欲しいと思います。
募集人数の上限	フィールドワークでの学習などを考え、12名まで募集します。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	個別面談を実施します。
ゼミ受入決定者への指示	事前にオリエンテーションを行います。(期日は別途連絡します)
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	・山口ゼミはホスピタリティを中心に学んでいるゼミです。ゼミ生はいつも学びに対しての意識が高く、笑顔が素敵です。学外にも目を向けて活動している人もいます。ゼミの中にいると刺激をもらうことができ、モチベーションが高まりますよ！互いに切磋琢磨できる山口ゼミで、私たちと一緒に学びませんか？ (4年生ゼミ長) ・山口ゼミはホスピタリティを中心に学び、多くのフィールドワークを通して『本物』に出会うことができます。ゼミの仲間は常に学ぶことに対して意識が高く、切磋琢磨し合える環境に自分を置くことができます。山口先生はいつも明るく、ひとり一人の夢や目標を常に応援してくれます。ホスピタリティを学んでみたい人、観光事業に興味のある人、素晴らしい出会いをこのゼミを通して持ちたい人は、ぜひ山口ゼミと一緒に学びましょう (3年生ゼミ長)

担当者名	山崎 裕子 (やまざき ひろこ)
e-mail アドレス	
研究室	6410
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木曜日 4 時限目、5 時限目
担当科目	[春学期] 哲学、倫理学、キリスト教入門、 西洋思想と国際社会、新入生ゼミナール [秋学期] 哲学、倫理学、キリスト教文化と社会、基礎ゼミナール
研究室を訪問できる 時間帯	月曜日 (4 時限目) 水曜日 (2 時限目、お昼休みが可能などときもあります) 木曜日 (専門ゼミナールの時間: 4 時限目、5 時限目、 お昼休みが可能などときもあります)
ゼミのテーマ	キリスト教を哲学する (3 年秋以降の各自のテーマや卒論のテーマは、キリスト教や哲学でなくともよく、自由です)
ゼミの内容・メッセージ	キリスト教圏の人たちの発想法を理解することとヨーロッパ文化を理解することを目指し、キリスト教と哲学について考えていきます。 自分の周囲の事柄を当たり前と思わずに、「なぜ」と問う姿勢が大切です。先行きが不透明な時代にこそ、考える力を培いましょう。 これまで自分で手掛けてきたテーマを深めたい方も歓迎します。
ゼミの進め方	1. 3 年次の春学期から秋学期の途中まで： 共通テキストを、ゼミ生全員が交代で担当して輪読。この段階で、哲学思想書の読み方を習得します。 この間の成果は、3 年の秋に、簡易製本の小冊子にまとめます。 2. 3 年次秋学期の後半以降： ゼミ生各自のテーマに沿って、発表を進めます。テーマは、哲学やキリスト教の内容でなくても、「なぜ」という問いを含むテーマであれば、O.K. です。 3. ゼミ論文は、完成すると卒業論文となります。
留意事項 (Requirement など)	
ゼミ履修に望ましい 科目	できれば、2 年秋学期に「キリスト教文化と社会」(月曜日 2 時限目)を履修して下さい。
募集人数の上限	9 名
選抜を行う必要性が 生じたときの方法	個人面談。適性と意欲を確認します。 考えることと読書が好きで、そしてキリスト教に興味があることが望ましいです。
ゼミ受入決定者への 指示	入ゼミ決定後、全員で一度集まりましょう。日程は、こちらから連絡します。
所属ゼミ生 (先輩) か らの一言	宗教の知識がなくても大丈夫です。 読書が好きで、宗教に興味がある方、お待ちしております。

担当者名	山田 修嗣 (やまだ しゅうじ)
e-mail アドレス	yamashu@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6209
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金曜 4限・5限
担当科目 (セメスター)	【春学期】 地域調査演習、景観と風景のまちづくり、外国語文献研究 【秋学期】 市民の環境貢献、環境コミュニケーション論、国際化・情報化時代の社会学、統計調査の基礎
研究室を訪問できる 時間帯	火曜 (昼休み)、金曜 (昼休み) など (詳細は研究室に掲示します)
ゼミのテーマ	市民参加と地域社会 ――「望ましい社会」における持続可能性と市民の役割の考察――
ゼミの内容・メッセージ	社会問題としての環境問題の解決案などを提案しつつ、これからの社会を構想することがゼミの共通テーマです。市民の地域活動と地域形成 (参加と決定を含むまちづくり)、環境・市民教育、企業の社会的貢献を課題にとりあげ、日本や国際社会の諸問題、身近な生活や文化の崩壊といった実生活に関わる領域など、さまざまな検討をおこなっていきます。これらのポイントを、社会学理論を用い、ゼミ参加者と考えていきたいと思えます。可能なかぎり現地調査も交えて確認し、市民活動への参加を通じて体験的に問題解決の糸口を見つけるゼミです。まずは、なぜあるできごとが問題と考えられるのかという話題からスタートします。そして、これからの「社会」について検討を重ねていきます。
ゼミの進め方	月に3回は、文献購読を行います。発表者はレジュメをつくって報告し、その後、全員で討論します。発言のない人は出席としないというルールにしています。また参加者は、プロジェクトチームに入ってもらいます。このチームは3・4年合同で編成し、卒業研究への具体的な準備 (研究) をするものです。月の最終週をこの時間とし、年に数回のペースで報告会を開きます。合宿の他、地域社会調査や実習、海外研修 (希望者のみ)、他ゼミ (他大学) との交流を行うなど、現地体験の機会も作ります。
留意事項 (Requirement など)	4月に全員で年間方針を決めます。この方針にしたがってもらいます。
ゼミ履修に望ましい 科目	とくに定めません。
募集人数の上限	10名 (学外での研究活動を実施する予定があるためです)
選抜を行う必要性が 生じたときの方法	もし定員をこえた場合は、選抜方法を連絡します。 研究室のドアにも掲示するので、よく確認して下さい。
ゼミ受入決定者への 指示	ゼミ開始前に顔合わせを行います。日時は個別に連絡します。
所属ゼミ生 (先輩) か らの一言	山田ゼミには、他ゼミにはない二つの自慢があります。①全てのことを自分達で決めます。②先生、3年生、4年生との壁がありません。ゼミ室には笑顔が溢れています。この意味を確かめるために、山田ゼミの扉を開いてみてください。待っています。

担当者名	山脇 千賀子 (やまわき ちかこ)
e-mail アドレス	chica@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6210
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜 4・5 限
担当科目	国際学入門 地域研究 (中南米) 国際学研究 A 国際理解とコミュニケーション 開発教育論
研究室を訪問できる時間帯	月・木 (昼休み) @6210 ゼミ訪問は木曜 (4・5 限) @6318
ゼミのテーマ	人間の視点からグローバリゼーションにむきあうこと —3.11 以降の多文化共生の可能性—
ゼミの内容・メッセージ	日本で生活することは何を意味するのか。3.11 以降、私たちはこの問題に向き合わざるを得なくなったはずですが。現代社会が抱える様々な問題が噴出している日本を相対化する必要があります。その際、人間の視点からグローバリゼーションを捉えなおすことを、ゼミの目標にします。ここでいうグローバリゼーションは、近年の現象に限らず、人・モノ・情報・文化などが地球上で行きかうようになったことを指します。世界レベルで起きている人間の尊厳にかかわる問題—差別・格差・闘争など—を分析する眼を磨き、人間として「世界」に向き合う準備を、ゼミを通してやっていきたいと思えます。異なる価値観や文化をもった人間によって構成されている世界において、お互いのコミュニケーションを破壊的なものとしなないために、私たちにできることを考えたいと思えます。関連するボランティア活動などの参加者は大歓迎です。
ゼミの進め方	3 年時には、基本的には、テキストの購読・担当者による要約・問題提起・ゼミ参加者による討論を中心に進めます。なによりも、大学という場におけるコミュニケーションの「作法」を学ぶことが目標です。4 年時には、卒業論文執筆にむけた具体的な研究・調査計画をたてます。大学で学んだことを卒業論文というかたちでまとめ上げることが、ゼミの最終的な目標になります。(卒業論文は製本されて研究室に保管されていますので、見に来てください。)
留意事項 (Requirement など)	ゼミ合宿にはできるだけ全員参加が望ましい。
ゼミ履修に望ましい科目	「国際学研究 A」・「国際理解とコミュニケーション」を履修していることが望ましい。
募集人数の上限	10 人
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接 (上限を超えた場合、面接日を設定して連絡します。)
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受け入れ決定後、新学期が始まる前にテキスト選定の検討会を行う予定ですので、参加してください。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	4 年ゼミ生には被ばくを経験した長崎出身者が 2 名おり、まずは長崎出身者の視点から戦争と平和をめぐる問題を振り返る合宿をしました。9 月には、沖縄で名桜大学の学生とのゼミ交流会を行います。ゼミ・メンバーは個性派揃いで、ゼミが貴重な異文化体験です (笑)。みんな、山脇ゼミで楽しもう!! (4 年ゼミ生の声)

担当者名	横川 潤(よこかわ じゅん)
e-mailアドレス	iun-v@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6413
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木4限 6226教室
担当科目	【春学期】国際観光とマーケティング、フードサービス特別講座 【秋学期】飲食店企画論、国際食文化論
研究室を訪問できる時間帯	昼休み(月・水・木) ゼミ見学希望者は木4, 5限 6226教室(予約不要)
ゼミのテーマ	観光ホスピタリティ、食のマーケティング(経営者に対する企画プレゼンテーション)
ゼミの内容・メッセージ	企業の経営者(または自治体の首長)に対して、本社(または庁舎)に赴いて研究発表の成果をプレゼンテーションします。今まで(株)ローソン(株)吉野家(株)すかいらーく(株)ヴィアホールディングス(株)めいらく等の企業、茅ヶ崎市、長野県売木村等の自治体に対して行い、プレゼンのいくつかは現実に商品化され、メディアでも大きく取り上げられました。その成果は就活でも活かされ、ANA、JALスカイ、星野リゾート、HIS、JTB、日通旅行、阪急交通社、JR東日本、スターバックス、セブンイレブン(本社総合職)、グリーンハウス(本社総合職)、プリンスホテル、ブライダル関連、コンサルティング会社など、観光ホスピタリティ企業や有名一般企業などの内定・就職に結実しています。
ゼミの進め方	【研究の流れ】オリエンテーション→プロジェクトの決定→学会参加→企業調査→ニーズ分析→競争分析→プレゼン準備→プレゼン本番→反省会とフィードバック→卒論作成・完成→学会発表(予定) 【研修旅行(3年秋学期)】京都。高級料亭から庶民的な市場までを訪ね、日本料理の本場でその精髓を学びます 【卒業旅行(卒業前)】ニューヨーク。アメリカの人気テレビ番組「ゴシップ・ガールズ」でも登場する有名レストランやDean&DeLuca本店などを視察し、研究の総まとめとします。
留意事項(Requirementなど)	強い責任感を持って、真面目にグループワークに打ちこめること。
ゼミ履修に望ましい科目	なるべく横川担当の科目を履修してください。
募集人数の上限	13名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	「希望調査票」の内容および面接
ゼミ受入決定者への指示	受入が決定した時点でミーティングを開き、その場で指示します。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	横川ゼミは活気に溢れていて、分け隔てなく誰とも仲よくなれ、根はまじめな子が集まったゼミで、やるときはきちんとやるゼミです。企業と連携して新たな商品、サービスを提案して世の中に発信することができます。それに向けて毎週グループごとに研究プレゼンを行っています。そのほかにも学会や食事会、ゼミ旅行、企業訪問などもあります。就職先は必ずしも食に関係なく、個人の希望する先に内定(トラベル、ホテル、ブライダル、エアラインなど)をもらっています。卒業旅行はニューヨーク(*^▽^*) 仲よく、楽しく、何かをやり遂げたいと思っているその君！ぴったりなゼミがここにある＼(o)／

担当者名	渡邊 暁子 (わたなべ あきこ)
e-mail アドレス	watanabe@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6305
出講日	月、水、木 (秋学期)
ゼミの開講時間	3 年生 (木曜 4 限目)、4 年生 (木曜 5 限目)
担当科目 (セメスター)	国際協力論、紛争と国際協力、文化人類学、農村社会開発論、 地域研究 G (東南アジア)、国際協力論総論
研究室を訪問できる 時間帯	月、水、木の 2 限～4 限で、授業や会議のない時間帯はおおむね研究室 にいます。詳細は、研究室前に掲示してあるので確認してください。
ゼミのテーマ	「社会の周辺から考える」 キーワード：開発協力、人類学、格差、都市と農村、ミクロな視点、
ゼミの内容・メッセー ジ	個人、地域、歴史的視点を大事にします。開発協力だけではなく、政治 経済や自然現象などさまざまな出来事は、社会のあり方や個人の生活に どのような影響を及ぼすのか。本ゼミでは、一つの答えや解決策をみつ けることを目指すのではなく、人びとに寄り添い、それを取り巻く地域 の問題群に焦点を当てたり、多様なアクター間の相互作用で作り出され るプロセスを分析することに重点を置きます。なお、テーマは海外の事 象に限りません。国内活動と国際的活動をつなぐ知見と実践知を深めて いく学びの空間をつくっていきたいと考えます。
ゼミの進め方	3 年生：前半は、主に関連する文献の輪読とワークショップ形式での討 論を行います。夏に個人もしくはゼミ単位でのフィールドワークを実施 し、後半に研究発表をします。1 年をつうじ、各自の関心ある領域につ いて「考える・調べる・伝える」が一通りできるように進めていきます。 4 年生：専ら卒業研究に充てられます。各自のテーマと内容について討 論形式で進めていきます。10 月に卒論合宿を行い、互いを励ましつつ それぞれ一つの課題について取り組みます。現在の研究内容は、人種差 別と映画、ロハス、内発的発展と運動、出産の人類学と個性豊かです。 ※フィリピンのバナナプランテーションに隣接する農村で、女性たちの 自立支援を目指すフェアトレードをサポートしています。フェアトレ ードに対してそのあり方や課題に関心がある方も歓迎します。
留 意 事 項 (Requirement など)	できれば、夏に任意参加の「海外フィールドワーク研修」をフィリピン にて実施したいと考えています。また、特に 3 年生は、毎年 6 月と 1 月 に JICA 横浜でおこなわれる「開発教育教員セミナー」(名称は随時変更) への積極的な参加を期待します。
ゼミ履修に望ましい 科目	国際協力論、紛争と国際協力、資源と国際協力、NPO・ボランティア の理論、開発と国際協力、文化人類学、その他国際学部の関連科目
募集人数の上限	9 名まで
選抜を行う必要性が 生じたときの方法	面接予定。希望調査票の内容を重視しますが、目的意識を持っているか どうか、周りとの協調して活動を進められるかどうかのポイントになりま す。学科の異なる学生がともに学ぶことで得られる相乗効果を期待した いので、特定学科を優先することはありません。
ゼミ受入決定者への 指示	事前にオリエンテーションを行います。そのときに、全員で年間方針を 決めます。
所属ゼミ生 (先輩) か らの一言	・私たち渡邊ゼミでは、国際協力、人類学等を主に担当する先生のもと、 あたたかい雰囲気の中で日々活動しています。昨年の夏にフィールドワ ークとしてフィリピンを訪れた際には、事前学習で学んだことをベー スに自らの肌で感じ、現地への理解を深めることができました。(4 年生) ・少人数のため、アットホームなゼミで、発言も多く、みんなで仲良く やっています。また自分のやりたいこと、好きなことを学べるゼミです！ (3 年生)